THE FIRST MAGAZIN OF WOMAN'S MOVEMENT
IN JAPAN.

婦人問題研究專門雜誌

# SHIN SHIN FUJIN

# 新眞婦人

五月號

〔第廿五號〕


婦人と衛生　西川文子
振袖火事の醫學的解釋　鴨田修治
人情ぢやありませんか　鳩山春子
科學上より見たる婦人論　高野重三
十二歳から二十一歳迄の女　みなつくし
ローレンス夫人の來遊　西川光次郎
賤機　さわらび
奥さんとお神さんの處世法　島田筑波
ペリクレスの妻　久留天豪
春の一日　玉露女
男の考へた女の問題　中尾清太郎


婦人問題大講演會（五月十五日正午より神田美土代町青年會館にて開會詳細初頁にあり）

大正四年五月一日發行（每月一回一日發行）大正二年四月二十六日第三種郵便物認可）大正四年四月二十八日印刷納本

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 看護婦見習生募集

年齢十八歳以上
學力尋常小學卒業以上
品行方正ニシテ傳染病ヲ有セザル女子ニ限ル

院長診察　月、水、木、金、午前
林、峰間、兩副長ハ目下當院に在勤

東京麹町區三番町三十番地（市ヶ谷見附内）
電話番町六二番
**東洋内科醫院**

院長　醫學士　**高田畊安**

電話ちがさき二番
**南湖院**
相州茅ヶ崎海濱（從停車場半里）
河野、高橋、兩副長は目下當院に在勤
院長診察土曜日午後。入院、診後應需

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 光焔 雄辯 萬丈

第六巻 五月號 第五號


■口繪豐富■縱論横議 青年の代表的演說數篇

■青年猛進論…桐生悠々
■タゴール論…池田林儀
■信每四週間…南木摩天樓
■犬養木堂論…柳下魚
■桂公の墓…冬湖學人
■政戰八百里…耕民學人
■ワシントン…大川白雨
■田園に出て…大澤一六
■名譽か屈辱乎…ロイドジョージ
■勞働の趣味…高師教授

●政界革新の急務……法學博士 浮田和民
●政黨の根本義……司法大臣 尾崎行雄
●主義と辯論……法學博士 松波仁一郎
●思ひ出多き江木學校……文學博士 澤柳政太郎
●新占領地南洋諸島……海軍大佐 佐藤已之助

■不思議の呑助…田中煙亭
■蜘蛛の怪異…磯萍水
■非媾和事件…笹川臨風
■半生のローマンス…村田榮子
■離散の前（小說）…石丸梅外
■旅より（和歌）…尾上柴舟
■選擧の歌…吉植庄亮
■馬場辰猪…內海泡沫
■花の窓より…耕民
■白衣の女…竹林庵

■演說會記事■各學校辯論部月旦



定價 廿八錢 郵稅二錢五厘

本鄉駒込坂下四八

大日本雄辯會
振替口座三九三〇

電話下谷
六四九九
四〇五四


Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 萬人の渇望せる佛蘭西近代文藝の一代傑作出づ!!!

製本既成 發賣

フローベル作 水上齊譯

全譯縮刷

## マダム、ボヷリー

佛蘭西自然派の鼻祖フロオベルが六年間の苦心になつた處女作である。そして又彼の作中の最も代表的傑作である。彼は一面に於てロオマンチックな、又一面に於て最も深刻なる現實の力に苛まれた家庭生活結婚生活を、一點の蔽ふ所なく書いて、その奥底を示した。人生の幸福と、熱情と歡樂との幻影が結婚によつて覺めはて丶からのボヷリー夫人の奔放にして苦悶深き生活は、移つて我が現代生活の家庭、結婚、戀愛、ヒステリー、自殺等の弊所をさながらに悉知するかとさへも思はれるのである。

美本紙數約八百頁 ポケツト形布裝

定價壹圓廿錢 郵税八錢

# 新刊好評

ドストエフスキー著 生田長江 生田春月 共譯

全譯縮刷 **罪と罰** 植竹文庫第三篇

定價壹圓四拾錢（郵税八錢）

トルストイ作 相馬御風 相馬泰三 共譯

全譯縮刷 **復活** 植竹文庫第四篇

定價壹圓八拾錢郵税八錢 三千部限 特價壹圓五拾錢 特價部數殘部僅少

東京毎夕新聞社主幹兼編輯局長 小野瀨不二人著

**最新實際新聞學**

定價壹圓卅錢 郵税八錢 二千部限 特價壹圓拾錢

現代代表作叢書第九篇 小山内薰著

**一里塚**

定價壹圓 郵税八錢

發行遲延の處四月末發賣せり 品切とならざる内御購讀あれ

發行所 東京神田區佐久間町四ノ廿三 （電話下谷 三四一九 振替東京 一三九五三） 植竹書院

# 五月號目次


口繪　英國婦人選擧權運動界の花形　ローレンス夫人出獄歡迎の光景
婦人と衛生　西川文子…(二)
振袖火事の醫學的解釋　鴨田修治…(四)
人情ぢやありませんか　鳩山春子…(五)
新眞婦人短歌
新眞婦人俳句
科學上より見たる婦人論(三)　高野重三…(九)
男の考へた女の問題　中尾清太郎…(一五)
十二歳より廿一歳迄の女　みをつくし…(一九)
工女の轢死　大月高陽…(二三)
ローレンス夫人の來遊　西川光次郎…(二六)
白耳義の婦人——露西亞の出版界


Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦人職業 劇場案内女の内容　立石蔦枝…(三〇)
ペリクレスの妻アスペシア　久留天豪…(三二)
賤機　さわらび…(三六)
サアニンを讀みて　長田雪枝……(四六)
奥さんとお神さんの處世法　島田筑波…(四八)
春の感染　坂本正雄……(五一)
自然より人生へ　豐田曉湖……(五二)
人の家見て　一記者……(五三)
春の一日　玉露女…(五四)
姙娠中の衛生に就て　多川澄子…(六〇)
生花について　尾崎恒子…(六二)
編輯餘錄……(六四)
新刊紹介……(六五)

五月一日發行

産科婦人
科小兒科

鷲山改め
女醫 吉岡彌生

院長診察 宅診午前 往診午後

醫員診察 午後

産室及病室の設けあり隨時入院の需めに應ず

東京麴町區飯田町四丁目卅一番地

東京至誠病院

（電話番町二二五七番）

# 久かた町より

安井哲子著

■五月中旬發賣

■人生雑觀（たちまち再版發行）

新渡戸稲造博士述

定價八十錢　郵税八錢

■婦人の典型（寫眞十葉挿入）

アリス・コークラン原著　林静太先生譯

定價一圓　郵税八錢

■小說タイス（口繪と寫眞と）

アナトオル・フランス原著　大每記者水野和一先生譯

定價一圓　郵税八錢

■和洋家庭割烹辭典

東京割烹研究會編纂

定價一圓八十錢　郵税十二錢

松村介石先生著　婦人の心得　上製定價廿錢　並製定價十五錢

松村介石先生著　婦人のかがみ　定價三十錢　郵税四錢

海老澤亮先生著　家庭と修養　上製九十錢　並製七十錢　郵税八錢

村田勤先生著　ナイチンゲール　定價五十錢　郵税六錢

發兌　東京橋尾張町　警醒社書店　振替東京五五三番

# 悲しい身の上

女と生れて讀まねばならぬ大切な事
眞に同情あらば試に此記事を讀め

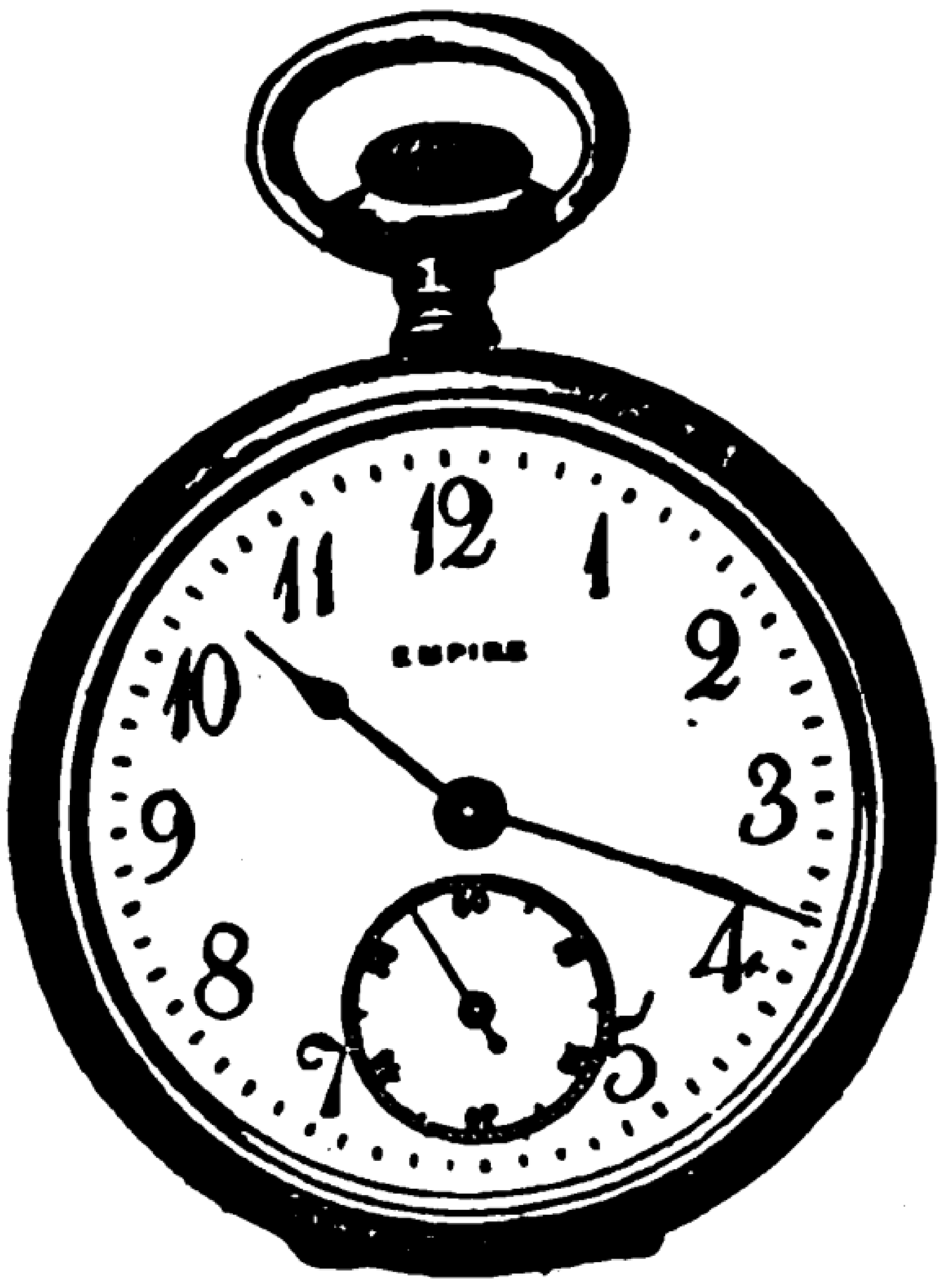
ア、ナゼ妾はこんなに緣遠いのであらう？…………澤山あつた御友達は皆御嫁に行かれ此近所で殘つたのは妾一人なんだか肩身が狹くつて……人樣の結婚談を聞いても新聞にある花嫁花婿の報道を讀んでも何となく自分にアテツケられる樣な感じがして……ア、こんなつらい事はない……と悶へ苦しんで居る方は直にハガキで妾の許まで御問合せ下さい如何に苦心しても治らない色の黑い醜い姿の顏が奇妙に色白く美しくなつた譯を詳しく御知らせ致しますコンナ事を云つて矢張りツマラヌ藥を賣るのだらうなどと思ふ方があるかも知れぬが妾はそんな有觸れた事や塗藥や化粧液ではない旣に妾の爲に生れ變つたように色白く美しくなつて喜んで居る人が澤山ありますから問合せるが恥かしひなどと引込思案をして居ないで僅かハガキ一枚で詳しい譯のわかる事ですから是非一度問合せて御覽下さい

東京芝區田村町三十八番地　橋本弘子　電話芝一六一四番

千九百〇九年四月十七日ローレンス夫人出獄歡迎の光景

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA




營業品概要

精工舍製懷中時計
歐米製各種時計類
雙眼鏡及各種眼鏡
測量用諸器械一式
製圖器度器及附屬品
氣象用航海用器械
プラチナ地金及製品
ダイヤモンド及諸寶石
貴金屬製諸美術品
寶石入各種裝身具

東京銀座四丁目

# 服部時計店

電話京橋（一三〇〇　一三〇二　一八〇〇
　　　　　一三〇一　一三二三

振替貯金口座東京二九八〇番

營業一覽御申越次第御郵送可致候

従二位子爵 長谷信成閣下題字

御大典奉祝會編纂並發行

# 國民奉祝 御大典早わかり

袖珍美本圖畫挿入正價二十錢郵税二錢

國家の大典たる御卽位式及大嘗祭の期日に迫れり御卽位禮は如何にして行はるゝか大嘗祭は如何なる御祭か建國以來此御大典は如何なる歷史を有するか蓋し是等を知らんと欲するは吾人國民の至情なり本書通俗的にして平易に正確に其内容を説明し盡せり本書を繙かば莊重なる儀式の有様を窺ひ知るを得べし苟も國民たるもの何人も一讀せざるべからず

文部省訓令 學校における結核豫防に就て

# 最近之肺結核療法

醫學博士 北里柴三郎監修
醫學博士 柴山五郎作著

第十三版 紙數二百餘頁金壹圓二十錢密封郵税八錢

肺結核は人生の最も怖るべき疾患なり然れども初期に於て正當なる療法を加ふれば全く治癒す、この正當なる療法を述べたるものは本書なり近時再び『ツベルクリン』療法は勃興し來れるを以て實地使用者の便に供せんが爲め第十三版にては最も實地的懇切に其療法を記述せり頃日文部省は全國各學校教員生徒の該豫防法を訓令す醫家及教職に在る者は須く本書に依つて患者に示すべき方針を知り患者は本書に依つて醫家命令の理由を會得し三者相俟つて治癒の彼岸に達するを得ん

東京麹町飯田町五 振替一一三九九〇 皇學書院

神田區鍛冶町 振替四七七二 誠之堂書店

# 堀内新泉先生最近之傑作

人間百種

# 細君百癖

中版四百五十頁總布

美本全壹冊

價壹圓廿錢

送料金八錢

## 新刊

女は常に濃厚なる化粧と華美なる衣裳に隠れて一見其の眞相を得ず。著者曩きに百人百癖を著し江湖の大喝采を博し今又其夫婦篇たる本書を成す。實に十年苦心の結晶也。觀察犀利。文書絶妙。一讀感に堪へざらしむ。家庭に必備の良書也。

内容目次大略

■酒の好きな女
■子供の喧嘩に飛び出す女
■夫おもひの女
■上手に夫の機嫌を取る女
■無暗矢鱈に笑ふ女
■法螺ばかり吹いて居る女
■馬鹿に夫を褒め立てる女
■これは困つた癖のある女
■何でも知つた振をする女
■近處隣に迷惑をかける女
■夫の勇氣を鼓舞する女
■妙に物を隠したがる女
■針の持てない女
■夫に甘へる女
■誠に邪猜深い女
■夫を尻に敷く女
■容姿自慢の女
■我子に酷く當る女
■力の强い女
■演劇好きの女
■人附の惡い女
■我子を自慢する女
■誠に無性な女
■至つて悋氣深い女
■負嫌ひな女
■だらしのない女(以下)

發行所 東京市本郷區本郷一丁目大通 電話下谷四三六二番 振替東京一二五五八 日東堂

一家の經濟は臺所に始まり一國の富強は國民經濟力の發展に竢つ!!

■恐ろしきはサイエンスノ力
■偉なる哉、發明の効益

■木の飯櫃で飯が焚ける器械
■女中を要せずして炊事が出來る器械
■たつた十八分で二升の米が飯になる器械

# 山崎式蒸汽炊事器=は

女子大學其他都下各女學校御用

一個の火力で
然かも同時に

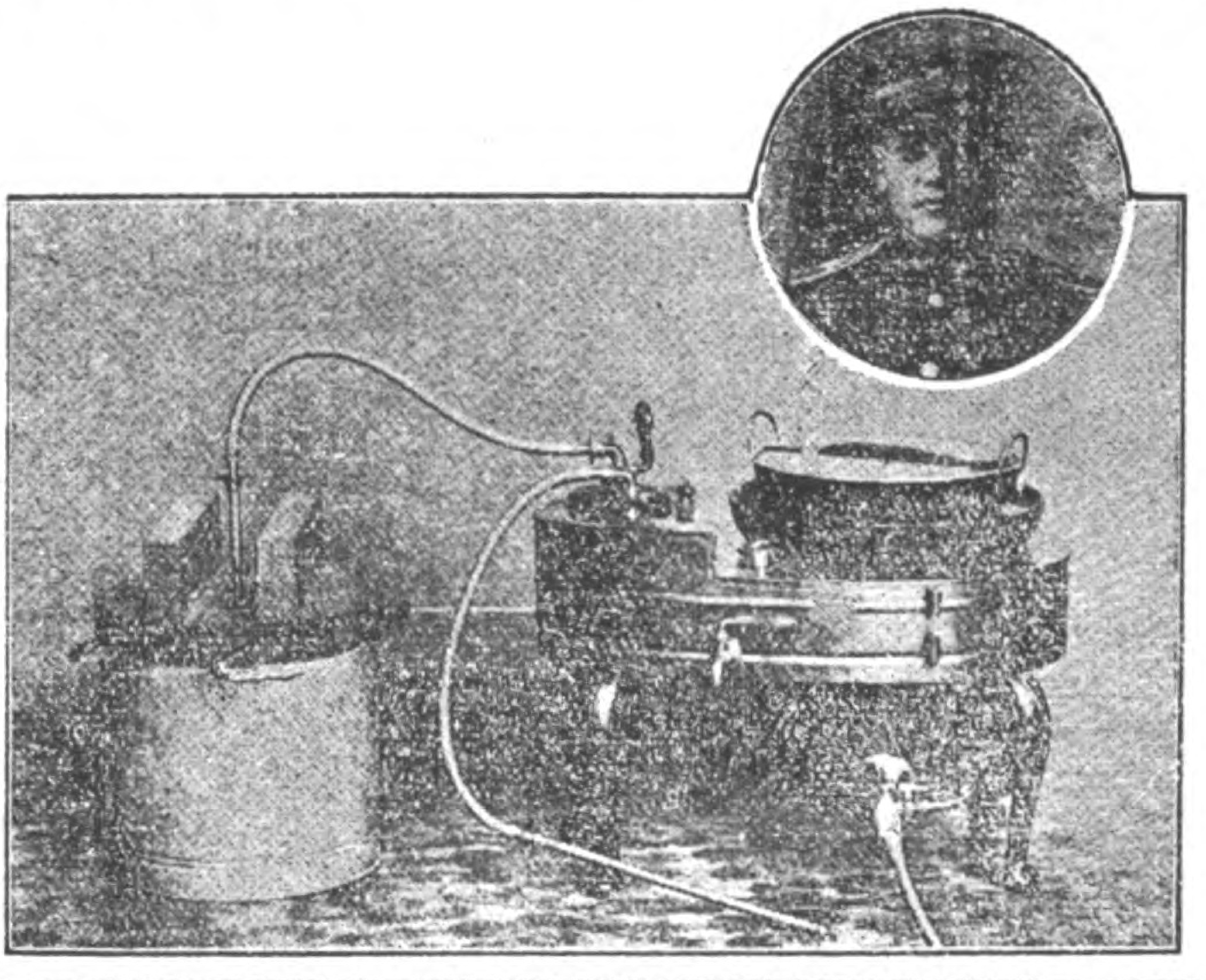
■飯が焚け
■汁が煮え
■お茶も煮え
■酒燗も出來る

各地に取次店を募集す詳細は直接照會あれ。定價表は御申越次第送呈す

# 臺所に革命を來せる發明品

■既に東京市に於ける經濟家の臺所には
■鍋釜竈七輪の類悉く姿を殁して
■山崎式蒸汽炊事器唯一個光り輝やけり

■白耳義の詩人メエテルリンク曰く
■舊きものは凡て皆亡ぶと



東京市赤坂區溜池演伎座筋向ふ

# 蒸汽商會

電話新橋二二八九

文學博士 坪内逍遙譯

新刊

# テムペスト

四六版天金美本
寫眞版木版密書
數個入 全壹冊
金壹圓卅五錢
郵税金八錢

大沙翁が最晩年の**傑作**にして其**絶筆**と信ぜられたる**夢幻詩劇！**是れ喜劇？仙話？樂劇？象徴劇？作者が**自傳の概要？**彼の四大悲劇などゝは全く基調を殊にせり。如是**絶類の作**を含味せずしては**大沙翁**の大沙翁たる所以を知るべからず。本篇には譯者特に讀者の爲に六十餘頁の**長論文**を添へて其解讀の枝折とせり。

## 沙翁傑作集 第七

【既刊】

| | |
|---|---|
| 1 ハムレット | 4 リヤ王 |
| 2 ロミオとジユリエット | 5 ジユリヤス、シーザー |
| 3 オセロー | 6 ヹニスの商人 |

發兌 東京牛込早稲田 振替一一二三番 **早稲田大學出版部**

東京神田裏神保町 振替五〇一番 **冨山房**

（賣捌）全國書肆

# ▲見よ!! 時代要求の珍書出でたり好評嘖々

（左の五書直接御注文の方へは世界の大戰一部呈上す）

前判事法學士 莊田要二郎先生序
新眞婦人主筆 西川文子女史序
醫學士 佐々木金二郎先生序
ドクトル 鈴木薫先生閲
日本藥學協會主幹 鴨田脩治先生著

參版

## 産兒制限論

一名避姙の研究

洋装總クロース 金文字入美装 正價金五拾錢 函入小包封送金八錢

●少く産みて多く教育せよとは産兒制限論の主眼なり、貧窮人の子澤山は子の爲めに益々貧窮に苦む、戰慄すべき墮胎罪は何んの爲めに起るか、薄幸なる私生兒の増殖するは何故なりや、今や生活難の聲は世界の隅から隅まで反響し、避姙法の研究は既に實行期に入りて成績顯著、

本書之を説くこと簡にして要を得、略にして疏ならず本邦に於ける現下唯一の珍本なり、乞ふ健兒を得んとする人は勿論母體の保護と而して遺傳の恐るべきを知らんとする人々は是非一讀あれ。

ドクトル下田良敬序 藥學協會主幹鴨田脩治著

新刊 整形 **隆鼻法**

洋綴美本 價四十錢

附病鼻療法送料免ず

**鼻の低き人形の惡き人**は勿論醫者も見よ本書の指示せる療法又は矯正せば容易に高くなり裏天や獅子鼻團子鼻煙突鼻の如きも正しき美形の鼻となる良書なり

醫學士高岡先生閲 鴨田脩治著 眼球解剖寫眞圖入り

三版 **近視眼矯正**及豫防法

洋綴金文字入美本 正價金四十錢

●今や文化の進歩と共に學生にして殆んど近視に侵されざる者あらず。近視を恐るゝは愚なり恐れざるも亦愚なり其理審かに本書にあり。既に幾分にても其疾あるものは瞬時も早く本書に依て之を矯正し、幸ひに其患ひなきものは一日も早く本書を讀みて未然に防ぐことを怠る勿れ。

陸軍教授西村豐序 鴨田脩治著

第四版 **どもり矯正法**

洋綴金文字入美本 價金四十錢

●本書は墺國醫學博士コオン氏のドモリ矯正法に則り著者が研究の結果世に公にせし者也此書に就て矯せば如何に『ヒドキ』ドモリの人にても數十日の練習にて矯正し得る良書也

陸軍砲兵曹長與藤久登著

第拾版 **長身肥滿法**

郵券廿五錢送附あれば直ちに送本す

**せの低き人** 本書に依る時は高くなる

**やせたる人** 病後産後其他生れ付の人にても忽に肉付强健となる不思議の療法なり短軀又は瘦て悲觀せる方は一讀あれ。

發行所 東京市本郷區丸山福山町四番地 日本樂學協會

新眞婦人愛讀者には送料免除す

# やんやと御評判の先生ずいらの六合館お稽古本

成女學校監 嘉悦孝子女史述

綸入總かな付 美本全一册 定價金廿八錢 送料金四錢

婦人の一番大切なお仕事は毎日の菜たきでしやう其中でお氣骨の折ますのは副食物でしやう假令一本の大根一尾のお魚でも料理法一つで美味不味に成升のは知れた事ですが其料理が費が多く手數が掛り升と毎日の事ですから面倒ですが此本には日本料理は申迄もなく西洋支那實に便利な御本です

東京上野しのぶ川主人

綸入總かな付 美本全一册定價金廿八錢送料金四錢

豆腐に大層な滋養分が有事は申迄もない事此本には料理の數が百九十種材料は僅一丁の豆腐で料理は皆違ひ升から厭る樣な事なく衛生によく美味く是が實際の惣菜で有升

井上秋工女史述

綸入總かな付 美本全一册 定價金廿八錢 送料金四錢

此頃は漬物には好時節又漬物のないお宅は有升まい此の本は其漬物を美味する漬方です別に費が掛る譯でなく極手輕ですおなじ漬物でもいろいろ漬方をして家内中を喜ばせて下さい

井上、大塚、高埜、中岡、前田、齋藤、平尾各氏合編

綸入總かな付 美本全一册 定價金卅五錢 送料金四錢

有觸れた裁縫の本と違ひ升是はどなたも御存じのない嬢樣方が御覧に成ても解るやうにして有升此迄にこの樣な本は有りませんが是が始めてゞす例は赤ン坊の襦袢の裁縫でも十九頁からみて有升もの其委しきは御察し下さい

英國メエリー、エム、ウインリツン女史
日本松波女史合述

綸入總かな付 美本全一册 定價金廿八錢 送料金四錢

此本が大層賣升わけは材料が牛肉や豚肉に限つた丈でなく費が少く手輕に出來十三四の嫌樣にても解ると申わけで其他に料理の心得や御客に出し方な書いて有ます

近定主人屋中定吉氏述

綸入總かな付 美本全一册 定價金廿八錢 送料金四錢

皆樣のおすきなおさつです御酒を召上る方が御嫌になるのはお料理の仕方がお惡いからです此本にかいて有ますのは上戸も下戸も喜び甘い鹽いて百二十種の珍らしい御料理ができます

梅田竹次郎述

綸入總かな付 美本全一册 定價金廿八錢 送料金四錢

日本菓子は申迄もなく西洋菓子等を有合せ道具で手輕に出來て美味物丈百五十種を極く親切に書いて有升本は買つたがお菓子は出來ぬと申樣な事のないのを受合升又贈物に手數のお菓子等は一層のお慰みと思ひ升

ねずみや主人 野本福藏氏述

綸入總かな付 美本全一册 定價金廿八錢 送料金四錢

此頃の足袋のお高い事一足お買になるれだんで三四足も出來升よこの本には名高いねずみ屋の足袋形が五文から十二文迄十八種附て裁縫の事から總てが悉皆書て有升からどなたにも解り升決していゝ加減な事は申しません足袋形だけでも五十錢の値段があります



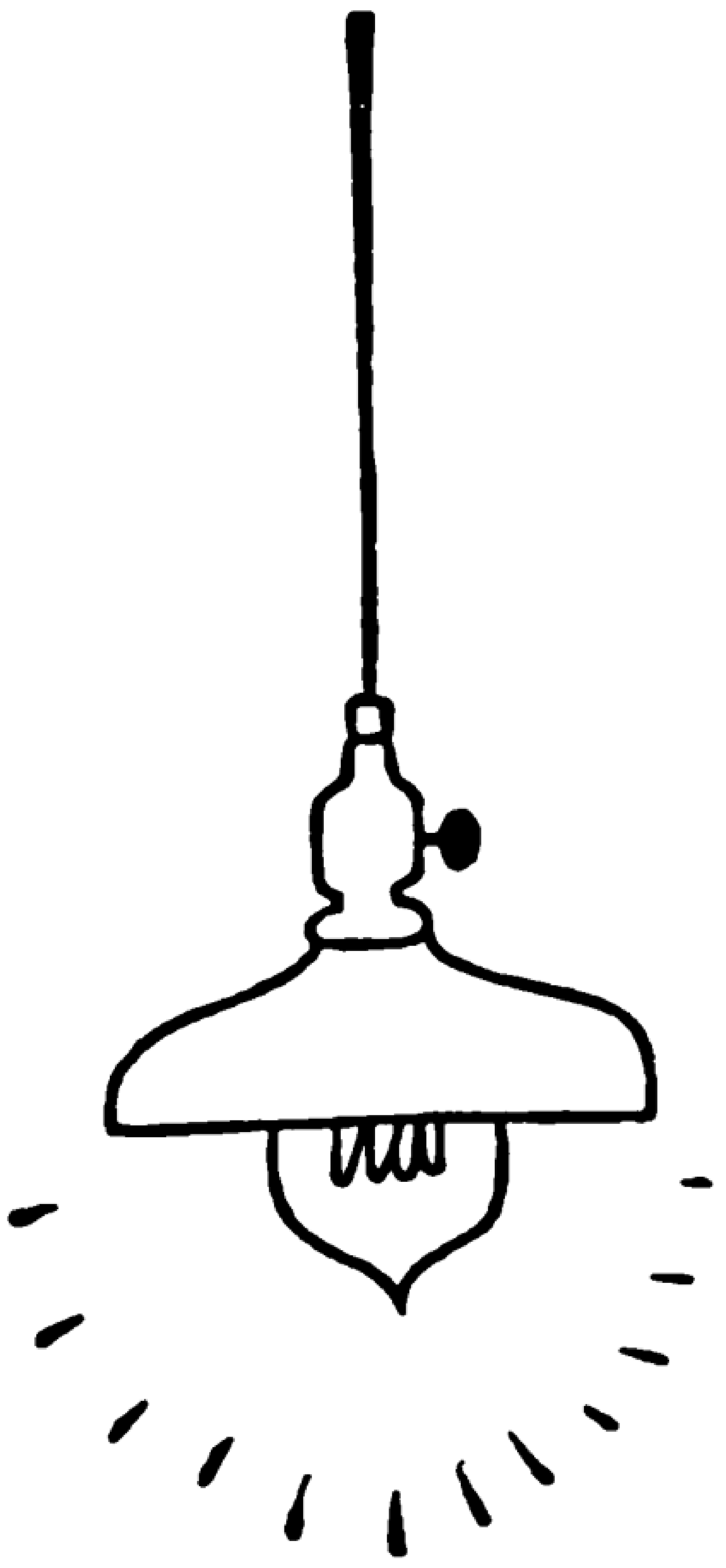
發行所
東京日本橋區數寄屋町
振替東京二三七一番
六合館

明るくて、お丈夫で
お徳用な
チーイー マツダ電球（ランプ）を
お宅の電燈にお點け下さい

■みだしの名でおたづねになれば
どちらの電機店にてもお求めに
なれます

神奈川縣川崎町
東京電氣株式會社

販賣部出張所
東京 銀座尾張町 電話新、一九三、三二二一、一〇五九、
大阪 西區阿波堀一ノ五 同 一七一一、
横濱 伊セ佐木町通 同 西一〇九九、



■銀座の出張所には最新式の
電燈設備が御ざいますからお立寄りを

# 新眞婦人

## 五月號(第廿五號)

▲時• 五月十五日日午後零時半より

▲處• 神田美土代町青年會館にて

## 婦人問題大演說會

▲辯士•

| | |
|---|---|
| 私の無髮と私の生活 | 伊藤朝子 |
| 貞操とは何ぞや | 生田長江 |
| 婦人運動の將來 | 西川文子 |
| 私の要求する女 | 與謝野寛 |
| 新しき酒と故き皮嚢 | 高島平三郎 |
| 新しき良妻賢母 | 高野重三 |
| 文明と婦人 | 內ヶ崎作三郎 |
| 女優風俗の惡影響を論ず | 青柳有美 |
| 『女子が參政權を得なば』 | 平木白星 |
| 開會の辭 | 同人諸姉 |
| 閉會の辭 | |



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 婦人と衞生

西川文子

## （一）貸家の消毒に就て

私の夫は

私は先年、下谷區谷中の茶屋町に居た時分引越す段になつてから『此の家には貴君の前に肺病の人が居て死にました』との話を聞きそうであつたかと驚いたことがある。其後本郷駒込林町の方に住居する樣になつてから、隣家の主人は肺病で斃れ、家族は國へ歸つて、其の家が空家となつた。所が其後へ直ぐ誰か引越して來た、隣人は例によつて新來者に前住者のことを談らない。其後私は又引越をしたが近くへの引越で、前後此の林町には四五年も居るので、今では此の邊にドウ云ふ人が住んで居て、ドノ家にはドウ云ふ病人があるかと云ふことが、大分分つて來た。ソレと共に、惡い病氣の人の居た後へ、何にも知らずに、消毒もせずに這入る人の如何に多きかを知り、東京の生活の如何に危險なるかを切實に感ずることとなつた。

と云ふて、近頃貸家の消毒と云ふことを世間の問題とせねばならぬと、主張して居ります。夫は其の實行方法としては

一面家主に消毒の義務あることを知らしむると共に他面に於ては、公衆に向つて消毒濟の證明なき貸家へは這入らぬと云ふ思想を吹き込まねばならぬ……又内務省令第一號に『病院、旅館が、結核若しくば結核の疑ひある者を入院若しくば宿泊せしめし場合に、消毒を怠れば二十五圓以上の罰金に處せらるべしとあり、此の省令の威力を貸家にも及ぼすことを



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

請願せねばならぬ。と云つて居ります。私は之れに同感で、新眞婦人社でも、其の運動に加はりたいと思ふて居ります。

實際、結核は家屋傳染をするもので、谷中淸水町十九番地にある四軒の家で、結核の人の居た後へ、人が這入り、這入りして、暫らくの間に、七人死んだと云ふ實例があり、又曾て富山縣廳の第一課に、一人肺病の人の居たのが元で、絶へず此の課には肺病人が出來るので、誰れ云ふとなく此の課は肺病發生課と稱せらるゝに至つた。今は此の課のありし建物は廢になつて居るとのことであります。消毒せざる家屋へ這入ることは斯くも危險なのであるから、貸家の消毒と云ふことは、是非實行せねばなりません。

## (二) 古着の消毒に就て

啻に貸家のみならず、別項鴨田先生のお話にもあります通り、古着からの傳染と云ふことも恐ろしいのですから、此の古衣の消毒と云ふことも、是非勵行して貰ふ樣に、運動せねばなりません。

## (三) 道路及汽車電車の喀痰に就て

高田畊安先生の話に、米國の紐育市では道路に喀痰したる者には一千圓の罰金を課し、若しくば一ケ年の入獄に處して居るとのことである。又諾威では汽車中痰壺外へ喀痰した旅客は中途で下車せしめて居るソウです。何せコンナに喀痰を喧しく云ふのでしようか、申すまでもなく肺結核患者の痰は極めて恐ろしいものであるからであります。然るに日本では今日尚、道路に喀痰して平氣です、汽車、電車の中でも、喀痰するものが尠なくありません。之れも早く勵行することにしたいものです。

## (四) 其の外

白耳義で實行して居る樣に、衞生官が市中をウロウロして居て、突然牛乳配達を捕へ、其の牛乳なり、函なりを試驗する樣なことも、日本でも早く實行したい



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ものです。凡て市中で販賣せらるゝ飲食物に就て、ソレ〴〵取締法を設けねばならぬのも無論であります。

## （五）婦人に近い政治問題社會問題

以上、述べました樣な衞生上の諸問題は、政治問題としても、社會問題としても、政治問題なり、社會問題なりの中で、最も婦人に近く私共婦人が政治問題、社會問題に手を出すとせば、最初にせねばならぬ問題であると思ひます。

私共婦人は、肺結核に對して十字軍を起さねばなりません。同時に恐るべきアルコール中毒と、花柳病に對しても十字軍を起さねばなりません。此の三者にして退治されなば、世の中から如何に多くの悲劇が取り去らるゝことでしやう。

# 振袖火事の醫學的解釋

鴫田修治

丸山新町の本妙寺のふり袖火事と云ふのは、ふり袖の袂の火が障子に燃え移つて、江戸三分の一を焼いたと云ふのですが、その傳説は或町家の十七八の娘が死んだ、處が其頃の習慣として葬むる時日頃娘の好んだ美くしい派手な小袖を一しよに納めた、寺ではソレを古着屋に拂下げた。ある時十七八の年頃の娘をつれた母親が其の古着屋の前を通りかゝり、丁度娘に似合ふらしいので、それを買つて着せた。處が其の娘はそれからぶら〳〵病にかゝり、丁度一年目に亡くなつた。不思議にも此の娘の葬式も本妙寺で營まれ、彼の振袖も寺に納められた。寺僧は何の氣なしに古着屋に賣つた。第三に買つた娘も丁度一年目に、又死んで、これも本妙寺に葬られ日頃娘の好んだ其の着物が棺に懸けられて來た。寺僧は茲に始めてどうも見覺えのある着



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

物だと驚き、恰かも此の時一週忌、三週忌、新佛の法要に來て落ち合ふた娘の親達に聞いて見ると、第一のは新調したと云ひ、第二、第三のは件の古着屋にあつたのを娘に着せたらさぞよからうと思はれたので求めたと云つた。僧侶は其の奇遇に驚き、且つ自己の罪亡ぼしに、今度は三人の親の立會の上で燒く事にしました。其の火が遂にあんな大火になつたので全く怨恨重なる亡靈の仕業だと傳へられてゐるが、今から考へて見ると何の不思議もない、肺癆といつて今云ふ肺結核だつたのです。消毒しない振袖についた黴菌から傳染したので、其の三人共早く死せしは春期發動期の十七八であつたからです。

序手ですから申しましよう、之れは別の話ですが、田舍などに行くと納戶といつて、病室にも產室にも、夜具、着替などもつめ込んでおく部屋があります、よく祖父も、親も、兄も肺で亡くなつたと云ふ家は珍らしくありませんが、それ前は全く遺傳ではないが、部室や着物を消毒しない爲めに傳染するのですから、是非日光に當てるなり、藥物消毒をしなければなりません。

# 人情ぢやありませんか

鳩山春子

選擧運動と云ふものが若し獨りで出來るものならば加勢を賴めば意氣地がないでしやうが、どんな候補者でも男子の運動員を多く賴んで、大臣でも誰れでも『どうか君一票入れて吳れ給へ〳〵』と賴むんぢやありませんか。甚しいのは政黨から運動費を貰つたり、自分の廣告の爲めに一つやつて見ようかと資本家から寄附を募つたり、さま〲の運動をするんぢやありませんか。茅原さんの樣に理想選擧だなんて云つてゐても誰



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れも入れてはくれやしません。ルウズベルトの様な大政治家でも他人の婦人を多く頼んで運動して貰ふたではありません乎、又男子ならば兄弟、家族に皆助けられて居るのに、母や妻がするから意氣地がないと云ふのは婦人を劣等動物とでも思つてゐるのでしようか、男でも女でも同じ人間とすれば運動するのに何も差支へはないではありませんか。

又政治家の家内は政治に趣味を持つと云ふ事は大切な事です、なか〳〵選擧は一朝一夕に出來るものではない。日頃から有權者に火事、死亡其の他幸不幸のある場合に見舞たり挨拶したりするのは皆妻たるものがしなければ、男にはそんな事まで出來ない、有權者からの注文も絶えずあるそれ等も妻が面倒がらぬ樣にして聞かねばならぬ。年始狀丈けでも六千人からの人に出すのですから三四百圓は入ります、又總體の會計と云ふものは家内が爲なければならぬ、選擧などは一朝間違へばどんな事になるかも知れないのだから、それ丈の覺悟がなくては出來ぬ、中々の大問題だから家内中相談の上で代議士に出てもそれ丈けの働きがあるかどうかと云ふ事も考へなくてはならぬ、そして四年間着るものも着ず、遊びに行きたい處へも行かず儉約しておかねばならぬ、家内のものが理解してゐると、居ないとでは他人の骨の折り樣も違ふ、母や妻が加勢をするのが何が惡いのでしよう、人間は親近のものに信頼される樣でなくてはならぬ、母親にさへ愛想をつかされ、妻にも心服されぬ樣な人間ならそれこそ仕方がない、先づ家内のもの、近隣、區内、市中とだんだんに及ぼして行くのが本當で、何も知らぬ他府縣で自働車を乘り廻したり、大金を振りまいたりしても故郷に行つて見ると、詐欺師かも、盜賊かも知れない。

私達が運動するので、さも〳〵一郎が意氣地なしの樣に新聞などで云はれましたが、何にそんなにするものですか、他のものは二時までも起きてゐても、私などはペンを持つたなりでも客の前でも居睡りを始めるので、もうお休みなさい〳〵と云はれて、十二時には寢ない事はありませんでした。大隈さんなどは演說で



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一郎の事を人身攻撃までされた樣ですが、先日も女子大學の卒業式で話された『今度の選擧で婦人の運動して成功したのは人情美が現はれてゐる』と云ふお話が新聞に出てゐます、皆理解してゐないのでないけれども故意に妨害する爲めに、云はれるのです、私どもの樣に辯護士を職にしてゐるものには意氣地なし呼はりをされるのは、甚だ迷惑です。

お春婆さん／＼と隨分惡口を云はれましたから、息子の爲めになつて居るのだか害になつて居るのだか分りません、モー／＼決してしません、しても自分の名刺などは調へません、私が何もかも指圖でもする樣に思はれますが私は普通の姑ほどにも世話をやかない全くの隱居なのです、小供が中學の四年までは英語でも幾何でも何でも學校と同程度のものを見てやりましたが、もう學校の方が忙がしいから宅のお稽古丈けは止めさして下さいと云つたので、早くさう云つて欲しかつたのだ、あまり智識慾がないものだからと云つて、五年からは一切一人でさせ、部屋の裝飾まで小遣をやつて自分でさせました、小供のよいのも皆私の勢のやうに仰やつて下さいますが、實は皆鳩山の力で、鳩山は決して喜怒を現はさない人でした。

記者申す選擧にお活動になつた位だから是非私共の婦人問題講演會に出てお話をして下さいと御願すると、あまり『お春婆さん／＼と新聞に惡口を云はれましたので、當分新聞に名を出したくないと思ひますから、どうぞそれ丈けは御免して頂戴、勘忍して頂戴』と申されました。私は鳩山さんは敎育家然とした堅苦しい人かと思つてゐましたら、極寛ろいだふつくりとふくらんだ頰、丸い愛嬌のある色の白い、丸々とした、眼もとに、雄辯も尤もとうなづかれる口唇の恐ろしく薄い、お口を右左と角なりにして語らるゝ間から同じほどのすきを隔てた小さい齒が奇麗に居並んでゐるのが、可愛らしく見へる、こだわりのない快活げな無邪氣な方でした。

## 新眞婦人短歌

島の人

百圓の月給取りはつまやかに暮して物の本を讀みけり
人夫等が荷揚ぐる聲の軟かう擴がりゆくよ朧夜の川
妹は十一年を綿繰りて靜かに老へり尼にもならず
八年ぶりに故郷訪へば大方のうつろひ果てし物の悲しさ

○

近藤なほ子

あゝ其の日上野の花の君が目に淋しかりしか許して給へ
知らざると見らるゝ時のやすかりし此の沈默にものありとしる



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

テニスして疲休むる其の間にもやつれし友の思ひうかびぬ
我胸をそと打ち給ひ此奥にものあらん等のたまゐしかど
悪しきとは知りつゝ我はこらへ得ずすれたりしかな胸のすくまで
問はれたり默する故に小さなる胸にあまりしこのふるへをば

## 俳句

島の人

春雨にぬれて嫁入る狐かな
東山見てあれば春の鐘鳴りぬ
下京や霞に暮れて繪雪洞
身ごもりて物云はぬ人日の永さ
畑打の鍬に投げ込む埴輪哉
月塔に沿ふて祇園の朧かな
廓更けて枕に壬生の蛙かな
俎に躍る魚や冴え返る
洋館の白きに萌ゆる柳哉
野遊や兒等賢にして繪をよくす
野遊や戀すてゝあるを人に逢ふ

○

くみ子

青き踏んで鹿と遊ぶや古都の春
春風に一人わりなき留守居かな
乳母訪ふて歸るさに摘む根芹哉
眼をやんで心重たし落つばき
欠伸まで眞似て鸚鵡の日永かな
花曇り心迷ひのする日かな
戀猫や町中の藪に雨しとゝ
陽炎に目まくろしさの産後哉
軒灯や雨になまめく糸柳
温泉の宿を根城に今日も春の山

○

潤子

夕されや柳に匂ふ雨後の月
化粧窓折々覗く柳かな
宵月をたのしみに結ぶ柳かな
貸舟の札つりさげし柳かな
青柳や手招く湯女の厚化粧
廓ありし名殘りを老の柳かな
馬つなぐ酒肆の軒端の柳かな
青樓や柳の雨に灯の映ゆる
柳けぶる土手を唄行く女の童
またきより甘露の雨や糸八七木

○

鹿鳴子

見ぬ戀のいとゝなつかし春の宵
春雨や若き身空を巷に更す
何をすれて夜更す姉や春の宵
したゝかに片袖濡れつ春の雨
春雨に伊達者のぬれて通るなり
春雨の窓に草すや歌日記
さまよひの跡綴りけり春の雨
新發意の猫の妻追ふ深かな
伽羅の香や峠の寺のうす霞
島の灯の赤きが戀し春の雨



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

科學上より見たる

# 婦人論（三）

（二月號科學的婦人論二に續く）

高野重三

過去二三ヶ月間友人の撰擧運動の爲め日夜多忙を極めて、ツイ婦人論の方は、其爲め暫らく御留守になつて居りましたが、本月號より又々研究の結果を發表することに致します。

さて科學上より見たる婦人論の續きとして、今一回、米國の醫學博士テンズモーア氏の男女同等論中の第二章「性の進化及び性的特徴」の大略を紹介し、次回よりは他の方面の問題に移ることに致したいと思ひます。

## 性の變化及性的特徴

社會には澤山の階級があるが、其の最も低き階級に生れたるものと雖も、其の階級以外のものに生長、出世することは、到底不可能であるとは、誰れも思つて居らないのである、丁度其の樣に、婦人が現今、男子と種々の點に於て異なり、多くの點に於て劣つて居るからとて、直ちに以て其の事が自然で、又避くべからざることであると云ふ事の理由とはならないのである即ち生物に於ける雌雄、又人類に於ける男女の兩性の相異なるものは、決して有機的又は根本的のものでなくて、たゞ偶然のものに過ぎないのである。

生物學界で有名なるヘエルトウキヒ氏は、雌雄兩性は其の外形に於ては多少の相異あるが如く見ゆるも、矢張り同じ生殖物質より起るものであつて、生殖物質夫れ自身は無性である、言葉を變へて云へば、雌となり雄となるのは其の生殖物質夫れ自身に異なりたる所ある爲めからでなく、其の物質が食物や氣候や其他外界より受くる刺戟によつてゞある、之れ恰かも木の梢



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

或は花となり、又或は刺となるのが、其の時の事情によるが如きであると云つて居る。

ゲデス及びトムソンの兩氏は『一個の卵子細胞が或は雌となり、或は雄となる其時を確かに知る事は我等の經驗にては未だ出來ぬのである。而して其の雌雄兩性に分るゝ原因は種々ありて、父母の體質、卵子の營養、又授精の時に於ける雄精の狀態、並に妊娠中に於ける境遇等を數へることが出來る、故に一個の卵子細胞が其發育中に雌雄何れかに變化し得る事は一度のみではないのである。有名なる生物學者ワキズマン氏の說によれば、動物でも、植物でも、卵子細胞と精子細胞との核に含蓄せる物質は、皆な同じである。而して之れが卽ち其の種族の遺傳物質であるから、雌雄兩性の生殖細胞なるものは何れも皆な同一であるとのことである。加之、ダーウキン其他の議論によれば、一種の機官又は働きを長く使用するとせざるとによつて體質に變化を起し、其の變化が遺傳するものである。例へば太洋に散在せる島嶼に棲息せる多くの鳥は殆んど羽翼を有して居ない、之れ夫等の島嶼には鳥を捕へて喰はんとする他の動物が、棲息せざる爲め、飛で逃げる必要なく、從て空中に飛ぶ機官たる羽翼の必要がなくなつたのである。

尤もワキズマンの說によれば、生物の身體には身體物質と生殖物質との二つありて、此の中生殖の物質のみが子々孫々に遺傳するものであつて、其の生殖物質を包んで居る身體物質なるものは、如何に外界の刺戟を受けて變化するとも、其の變化は子孫に傳はらないとのことである、併し之れは餘りに牽强附會の說であるとの非難が學者間に無いでもない。且つワキズマンも其の外界の刺戟が身體物質によつて包まれて居る生殖物質にまで及んだ時には、同じく其の物質にも多少の變化を起し而して其の變化が子孫にも遺傳すると云ふことは認めて居るのである。

兎に角、何れの學者も生物界に於ける變化の最初の原因は、外界の刺戟であると云ふことは認めて居るの



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

である。

前陳のゲデス及びトムソンの兩學者は、其の著書に於て、雌雄兩性は其の原始時代卽ち生殖細胞の時より旣に其の性を異にして居ることを主張し、活動的、破壞的の細胞を雄性(カタボリック)と稱し、而して靜止的、蓄積的の細胞は雌性(アナボリック)と稱して、居るのであるが、併し此の兩學者と雖も、第一に其の細胞は絕體的に同物質のものであり、第二に其の細胞の外界より受くる刺戟例へば營養、氣候、光、其他によつて其の素質に變化を起すことは認めて居るのである(拙著「婦人問題早わかり」その前篇、二十七頁より卅頁までを參照せられよ)

以上諸學者の所說によつて、雌雄兩性は根本的に最初より異なつたものにあらずして、たゞ外界より受くる境遇の變化、及び遺傳の結果より起りし相違に外ならぬことが分るのである。而かのみならず、茲に潛在性と稱すべきものがあつて、雌が或時代に於ては全く雄と全然同一なる特徵を帶びることがあり、又雄が或特種の事情の下に全く雌と同一なる現象を現はすことがあるのである。

而して境遇及び遺傳が兩性の第二次性卽ち兩性の特徵の分るゝ原因であることも、知るに難からぬことである。卽ち下等動物より人類に至るまで、生物界に於ける凡ての雌性若しくば女性は、仔又は子を產むことによつて其の身長、體力及び活動力の發達を妨げられ、ソレが又遺傳の原則によつて、特に其の雌又は娘にのみ傳はり、其の性質の長短共に時代を重ぬるに從て蓄積し何百、何千代の後には、遂に此等が雌雄若しくば女性の特徵となるに至るのである。又父親なるものは、產兒の妨げなく、從て其の身長も體力も亦た活動力も、充分に發達するの機會があつて、之れが代々雄性又は男性の子孫にのみ專ら傳はるが故に、數百千代の後、遂に此等が雄性又は男性の特徵として蓄積せらるゝに至るのである。之れが卽ち雌雄又は男女兩性の特徵の相異なれる最大原因である。例へば太陽の光線は石炭に固化して、其の力が其の中に蓄積せられて



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

居るのであつて、此の石炭が一度び燃燒さるゝことになると、石炭が解體して光と熱とになるのである。雌雄兩性の相異なる如く、光と熱も一見相異なつて居るのである。併しながら螺旋一つの加減によつて、解體されし石炭の力が光か熱か、何れとも自由になるのである。物理界に於ける石炭即ち太陽の光線の事柄が、よく生物界に於ける生命の事を現はして居るのである即ち勢力と云ひ、元氣と云ひ、或は單に力と云つて、其の言葉は種々に異なつて其の力、物理界に於ける最も重要且つ根本的の事實である其の力が、或は光となりて現はれ、又或は熱となつて感せらるゝのは、單に偶然の出來事に過ぎないのである。ソレと同じ様に、生物界に於ける最も重要にして根本的なる事實である生命が、或は雌性として現はれ、又或は雄性として現はるゝも、單に偶然の出來事に過ぎないのである。

若し此の假說にして眞ならしめば、一本の木が或緯度に於ては雄花を發し、他の緯度に於ては雌花を生じたりすることや、鳥類に於て雄の方が羽毛も澤山に且つ美しきが例なるにも係はらず、時によりては最も簡易で見すぼらしくあるべき雌の方が立派であつて見たり、鷄の雌は常にやさしく、おとなしき性質を帶べるにも係はらず、時によつては殆んど雄鳥と同様なる特徴を現はすことがあつて見たり、又時によれば、雄鳥が雌の所業たるべき卵を孵化し、雛を育てることをして見たりすることや、又雄の哺孔動物が時として雌と同様に乳を出して其の仔を養ふたりすることのあること其等の事實が、凡て之れによつて容易に說明せらるるのである。即ち性なるものは偶然の出來事にして、決して重要に且つ根本的のものではないのである。

最後にデンズモーア博士は、私が以前兩性中心說だの、又クリスチー女史の婦人の發展と云ふ本を紹介した時にも云つて置いた、米國の有名なる社會學者レス・ター・ワードの議論を引用して其の自說を確かめて居るのである。引用は主として今より八九年前に、紐育市のインデペンデント紙上に掲載せられし同博士の『兩性の過去及び將來』と題する論文より、之れを爲し


Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たもので、即ち左の如くである。

最初、原始時代に於ては、凡ての有機體は自己受精をしたもので、特更に性なるものはなかつたのであるが、強いて之れに性を附すれば、其の有機體の仔を産むと云ふ事實に徵して、之れを雌性と稱することも出來るのである。其後に至つて漸やく雄性が出來、最初の雄性は誠に倭少で見すぼらしくあつたのである。併し最初より雄性は雌性の生殖に變化を與へたのは事實で雄性の増加するに從ふて、雌性は其の中より最も己が好む所の雄性を撰擇淘汰し、此の淘汰によつて、雄性は其の身大、及び重要さを増し、更に雄性は雌性の歡心を得ん爲めに、互に相競爭して、益々其の身大と重要さを增したのである。而して元來雌性の體格組織は雄性のソレに比して高尚であり、又理想的であつたのであるから、撰擇淘汰されし授精者たる雄性の變化は、即ち漸次雄性の雌性に似て來ることに外ならなかつたのである。

鳥類及び哺乳動物の時代になつては、雌性よりは雄性の方が、裝飾に於ても體力に於ても鹿や孔雀の如く雌性に優ることとなつたのであるが、蟲類に於ては、雄性の發育がソレ程著しくなく、雄性は雌性に比して甚しく劣等であり、たゞ單に授精の用を爲すのみであつて、其の下等なる者に至ては、無性生殖をして居る位である。

性の目的なるものは、最初は生殖にあらずして、たゞ血脈を交叉して有機界に變化を起し其の發育を助ける爲めに、起つたに過ぎないのである。されば哺乳動物にしても、又人類にしても、雄性又は男性の體格、體力其他に於て優つて居るのは必らずしも、雌性若しくば女性の上に支配權を有する目的から生じたものではない。たゞ單に生殖を補助するの目的に過ぎないのである。故に長き時代の間、生物界に於ては母系制度が最も自然的の制度であつて、其の期間は餘程永かつたのである。其後に至り男性が女性の產みし子に女性同樣親たるの權利あることを自覺するに至つて、玆に始めて父系時代が出現したのである。



Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

さて父系時代になつてからは、腕力之れ權力と云ふことになつて、遂に男子が女子を虐待し壓制して之れを己が自由に取扱ひ、果ては一夫多妻の制度が出現する樣なこと丶なり、女子は其の昔ながらの權力も威嚴も失つて、遂に男子の奴隷となつて、其の機嫌氣褄を取らざるを得ざる憐れな境遇に落入つたのである。女子は男子の愛を得んが爲めに、他のより重要なる性質をも放棄して、只管容色の美を競ふて其の歡心を得んことを努むるに至つたのである。

然るに近代に至つて、一夫多妻の制度に代つて一夫一婦の制度が行はる丶ことになつて、男女双方に於て互に其の相手を撰ぶ狀態となつたのである。けれども尙ほ婦人には殆んど經濟上の獨立なるものなく、單に男子に寄生して居るのみである爲めに、未だ原始時代に於けるが如き女性優勝の位地に復歸する事は出來ないのである。尤も女子の優勝は男子の優勝と同樣に有害である。經濟上に互に獨立し、其他の事に於ても天然自然によつて定められたることの外は、一切平等たるべきことは、未だ達すべくして達せざる最大目的である。過去に於ては性の平等を認むることは出來なかつたのであるが、將來は益々之れが平等になるべきである。

古代より傳はり來りし男女兩性間に於ける不平等は今日に於ても尙ほ廣く世界に行はれて居るのである。斯かるが故に多くの人々は、之れが天然自然であり、且つ必要であるかの如く、云ひ爲して居るのであるが之れよりも大なる過りなく、世界の歷史の上に、一として斯の如き臆說を辯護する丈けの事實はないのである。目下進行中の婦人運動は、兩性が完全に平等の取扱ひを受くるに至るまでは決して止まぬのである。凡ての不平等の中、最も劣惡なる男女の不平等の爲めに人類は今日まで、殆んど人類の爲し能ふ、凡ての大なる活動を爲し能はざりしと云ふも、敢て過言ではないのである。而して男女間に於ける平等が完全に行はるゝに至りて始めて人類の目覺ましき活動進步が始まるのである。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 男の考へた女の問題

中尾清太郎

私は今此文の初に、私が『新眞婦人』の惡口を、そつと列べて置いた私の短文集を其儘前號に載せられた「私の文さん」の大樣な氣前に向つて、私の喜と懐しみとを捧げる。そして我日本の國が——殊に日本政府が『私の文さん』のやうに、もつとゼネラスな態度であつたら、私達はどんなにか幸であつたらうと云ふことを附け加へて置く。

## 一　婦人の政治運動

今度の總選擧の競爭には大分婦人の戸別訪問が行はれたので、其筋では婦人の政治運動を禁止すると云ふ噂が傳はつてゐる。見苦しい戸別訪問（それは婦人を侮蔑する）や、米搗ばつたのやうな意氣地ないお辭儀運動（それは婦人の權威を無いものにする）を差し止めるはいゝが、堂々たる政見の發表や、許されたる範圍内の政論までを禁じようとするのは惡虐だ。しかし戸別運動なんかする女に、政見だの、政論だの、ありやう筈がないから、政治運動禁止もよからうが、それぢや、これから乘り出さうとする『新眞婦人』が最も迷惑する。花の會や、白國同情婦人會や、愛國婦人會のやうな、唯金を集めたり、名譽會頭を戴く位の爲事なら、『新眞婦人』でなくとも出來るのだけれども、將來の婦人參政權運動などは、是非共『新眞婦人』に賴みたいんだから。

## 二　女學校の入學試驗

ことしの新學年に、お茶の水高等女學校では、五十



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人の定數である所へ、四百幾人かの入學志願者があつた。府立一中でも、百人しか入學を許さない所へ、二千何人かの志望者があつた。それで、一度ならず二度までも、むつかしい問題を出して、篩ひ落し試驗を行つたと云ふのだ。こゝで私の感ずることは、人間は皆が皆學問しなければならないと云ふ理由のない事や、學校と云ふものは存外つまらないものであると云ふ事や、を早く一般に知らせたい。そして入學試驗の方法をも改める事にしたい。先づ女の子なら、顏形の優れて美しいのを採用するのだ。男の子なら、成るたけ利口さうなのを採用するのだ。男の子の出來榮のいゝのは、大抵顏で知れるものだ。女の子は、どうしても出來榮の惡いのが多いんだから、私の謂ふ方法で其撰擇をあやまるにしても、美しければそれ丈でも取柄があると云ふものだ。また美しい子には、質のいゝのがあるものだ。少くとも私は、美しい女の子に學問がさしてみたい。

又、今日學校で生徒互に成績を爭ふ風のあるのは、元來試驗制度が激成する所のもので、あれは他日のマキャベリズムや、ジエスイチズムの萠芽を養ふやうなものだ。

## 三 『蒲團』の離緣事件

『蒲團』の主人公が女主人公を離緣したと云ふ話がある。其離緣の條件が、第一悋氣深い、第二家政が下手、第三姑に仕へる事が到らぬと云ふのださうな。(『時事』所載)——まるでアナクロニズムの『七去』の沙汰を聞くやうだ。

私は交際上、兩人を識つてゐるから一層をかしく思つた。しかし夫婦間の事と云ふものは、曾て島村抱月君が須磨子問題の時に言つたやうに、他人の窺ひ知るべからざる複雜な内容があるものだ。だから私は『蒲團』の主人公の今度の事件にでも、表面丈のいきさつでは徹底した議論の出來ないものゝあることを推測する。

其後『讀賣』の女記者が此事件の女主人公に會つて聞くと、彼女は『これには込み入つた理由があります…



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

…。どうせ私は家政が下手でしよう。……夫に愛されなくて一所にゐたくありません。……十年の惡夢を見たやうなものです。……たゞ一人の子が可愛さうです。……』などと平凡に答へたさうだ。――それで想ひ出したのは、昔秋胡子が結婚五日目で遠く出て、五年間おとづれせず、金を儲けて家へ歸る途中、美しい女を見て心を動かし、金をやるから己に從へと云ふやうなことを言つた。女はばかにするなと云つたやうな氣勢で、振り切つて去つた。秋胡子は慚ぢて家に歸ると、母と共に迎へて呉れたのが、たつた今途中で逢つた女だつた。女は怒つて、あなたは勝手におしなさいと、とつと〵出て行つた。そして河に身を投げて死んだと云ふ話が支那にある。身投げ丈は感心しないが、とつと〵出て行つたのは面白い。そして五年間空閨を守つたのも、どこか『愛されなくて』と云ふ我女主人公に似て面白い。(秋胡子の話は、元の出所を忘れたけれども、『故事日記大全』には出てゐる。)

## 四　貞女一夫の非難

或る事を調べるつもりで、『鴉鷺合戰物語』を出して見ると、『貞女二夫に見ゆと雖も、一身を修めて他の嘲を受けず』云云と、例の貞女一夫論に非難を加へた句が目に附いた。それで調べようとした事は、暫く後廻しにして、この事を考へてみた。一体貞女二夫に見えずの語は、『史記』の田單傳に出てゐるのが初らしいが、あれでみると、王蠋が『忠臣は二君に事へず、貞女は二夫を更へず』と、自分の態度を正化する爲めに、貞女云云を對句に使つたものである。尤も、それを對句に使ふからには、いづれ其頃の世の習慣や認識を經たものでもあらうが、貞女こそい〵面の皮だ。そして其忠臣云云、貞女云云の道德的成文が日本に傳はつたのは、いつ時分か今歷史的に穿鑿しかねるが、恐らく足利の頃であらう。――此『鴉鷺合戰物語』の出來たのも足利末の比較的自由な思想の抱かれた時代だから、貞女二夫に見えずなんて、そんな頑しい思想には反對したものとみえる。たゞ此思想は德川期になつて、何事も規律で切り盛りしようとした時代に誠に



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

都合が好かつたので、それを見て取つた益軒が、『女大學』に收めて、恰も不磨の道德律のやうに高調したものだから、彼の平易な俗文と共に其思想までが弘まつたのであらう。それは勿論、其頃の時勢の容れた道德律で、今日では破つて棄てようが、どうしようが銘々勝手にするがいいものだ。殊に『鴉鷺合戰物語』の時代には――德川期以前では此思想が非難されたと云ふのは、不思議でもないが、ちよつと面白い。（尙ほ、益軒と云ふ男は若い時分、京都に遊學して、島原の小紫と云ふ太夫に契をこめ、國へ歸つてからも、はるばる文を寄越されたと云ふ色男である。『北窓瑣談』參照。）

## 五　自殺夫人の辯護

自殺は卑怯だと云ふ。其人は社會的に打死をしたのだと云ふ。そりやさうかも知れない。だけれども、物には見方がある。表からばかり見てゐると、裏がわからない。外からばかり見てゐると、內がわからない。ピラミッドは三角ばかりだと思つてゐると違ふ。四角も五角もある。それは近よつて、表からも裏からも見なければわからない。又更にピラミッドが何であるかの眞相を盡くさうとするには、內に這入つて見なければわからない。自殺は自分に殉じたものだ。自分の哲學に從つたものだ。彼は自分の思想を行ふに最も忠實で且つ勇氣のあるものであつた。決して卑怯とは言へない。人間の行爲は、單に社會的にのみ批判することは出來ない。それは個人の權威を見ないと云ふものだ。個人の眞の價値は、個人それ自身に持つたものが貴いので、社會的にのみ論ずるは、ピラミッドを一面からのみ見て、三角だと論ずるやうなもので、正しい見方ぢやない。凡俗はそれで頷くかも知れないが、知識ある者は承知しない。即ち自殺の場合は、社會的客觀的に見ると同時に、個人的主觀的にも見なければ眞相を穿つことは出來ない。

――これは或る朝、私の家の近所で、理學士某の細君が姑にいぢめられて鐵道往生をしたと聞いた時、私はオフィスへの道を歩きながら、考へたことだ。果して其細君は、自殺に對する哲學を懷いてゐたらうか？　そりや私の知つたことぢやない。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 十二才から二十一才迄の女

みをつくし

若い女についてこんな觀察を持つて居る人もある。

それは醫學博士カロリン・ウォルムレイ・ラチイマア氏である。博士は若い女――十二歳から廿一歳迄位の婦人を、色々の時代に分けて觀察し、私見を發表して居る。

## 第一、自覺時代

若い娘時代の心的特性を研究しようとして忘れてならない重要事項は、其情緒的生活と云ふ事である。如何なる場合にも、如何なる動作にも其特徴ある感情的分子は含まれて居る。しかも皆美しい意味を持つて含まれて居る。そして心理的變化は必ず生理的變化に伴つて同時に起り、しかもより長く續くのである。概して云へば肉體的(生理的)變化は主として十二歳から十六歳迄の間を支配し、心理的變化は十二歳から廿一歳迄を左右して居る、而して最も其激しいのは十五歳から十八歳迄の間である。その心的變化の中で最も特徴あるものは表題にあげた自覺――詳言すれば自己を意識する事で、之れが此の時代の總ての心理的變化の根原をなして居る。

幼年時代には自己についての自覺はない、よしあつたにしても極々少しのもので、それも例外である。幼年の娘はお互に他人についてのみ注意を拂つて居る、彼等の判斷や意見と云ふものは全く他から取つたものである。それ故幼女の特性は模倣であると云へる。然るに、生理的に春が目覺めると同時に、精神的にも新變化が行はれ、個性の發芽を見、推理、判斷及分類等の能力が生じて來る。それ迄は、彼女の生活は單に彼



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女の周圍の事物にのみ限られて居た。そして全ての物が何の疑問もなく受け容れられて居たのである。しかし個性の發芽と同時に、今迄の狀態では濟まされない先づ第一に彼女の周りに起る物事について一々質問を始める、更に一步進んで世の中を見る眼を開く、彼女と周圍の事物との關係を考へる――卽ちそれ等の事物の中にあると云ふ事は何か自分の爲めになる事である事、及びその可能なる事を企てるのである。此の生理的覺醒の裏に性の神祕が潛在して居る、然も彼女はそれを知らない、けれ共あらゆる思想にも情緒にも其意味は入つて來て居るのである。

**――自覺は種々の方法で顯はれて來る――**

此の時代の根原的の自覺は種々の方面に、色々の形になつて顯はれて來る――時としては、全く裏切り者としてさへ。

第一に姿を顯はすのが利己である、之の時代程娘にとつて面白い事はないのである。そして又愛他的の本能――他言すれば他人に對する愛情の顯はれるのも亦此の時代である。卽ち社會に於ける自己の存在と同時に、同一の地位が又他人によつても占有せられて居る事を自認するから、從つて此の相反したる――利己と愛他を生ずるのであつて、一生涯の中こんな事の起るのは此の時代のみに限られて居る。又自己を信ずる――自信の念と共に自己を疑ふ相反せる感念が起るのも此の時代の特徵である。

要するに此れ等は全く自己を理解する知識に缺けて居るから起る自然の結果である。實際此の年頃の娘は自己を知らない。自己を理解せずして得た自信は忽ち其根柢を覆がへされてしまふものである。

自覺の結果如何は、其娘の性質を左右する事になる例へば、臆病な娘は、年頃になれば羞にかみ家で內氣で他人の面前では全く物も云へないと云ふ樣な不器用な女になつてしまひ、ブル／＼ふるへて居ると云ふ樣な始末になつてしまふ。又反對に泰然自若たる娘もあつて、時には大膽過ぎるとさへ思はれる事もある。

卽ち臆病なのは、自覺がないから從つて其なす所を



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

知らず周章狼狽するのである。

――社交上の智識は常に彼等の心に大變化を與へる――

年頃になれば先づ第一に其外見に關して急激な智識的變化を生ずる。之れは自覺の表顯の證左の一つである。そして先づ衣服の如何と云ふ事は朝から晩まで娘の心を支配するもので、彼等は自分の生活に一番重大な關係を持つて居るのが衣服や身のまはりの如何であると考へて居る。衣裝について何の位苦心して居るか判らない。家にあるにも亦外出するにも第一にその事を考へる。そこで其性質が自然衣裝に對する嗜好の上に顯はれる、或る娘は非常に華美な人目を曳く様なものを好み、或る娘は又極く地味なものゝみを好く事になる。つまり前者は其性質が大膽で後者は臆病な結果である。

化粧品や装身具等についても亦十二三才迄は男の兒と同様何等の注意も拂はなかつたのが、十五才の聲を聞く頃には、なるべく良いもの、なるべく良く見えるもの、又流行のものを得やうと苦心する。そして少しでもよく見えるものを持つと云ふのを唯一の誇りとし自分の部屋や持物や身のまわりを飾りたてる。これは娘として、自覺の生じた證左で、又異性の心をひくのにつとめるのである。

社交の方面にも亦二種の別を生じる。即ち一は交際を好み、招かれゝば何處へでも行き歸るのを忘れて遊びまわる、一時でも獨りで居るのを苦しがる。これに反して他のものは全く孤獨で居たいと願ふ、友達の群から離れて、獨りで散歩する。獨りで考へにふける事を好む。口をきく事も好まないと云ふ風である。然し恁う云つた性質には別に六ケ敷い意味があるのではなく、單に自覺に乏しいと云ふ原因にすぎない。(續く)

## ローレンス夫人の來朝

ペシック・ローレンス夫人は、今支那にゐるんださうですが、六月頃には日本へ來るとの噂があります。夫人の事は本誌新年號及び二月號に中尾清太郎氏の紹介された『マーキノ・ヨシオ君の婦人同盟訪問記』と『思出のフオセット夫人』とに出てゐますから、御覧になれば多少の御參考にならうと思ひます。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 工女の蝶死

大月高陽

西川様、先日は失禮いたしました。

乳色の櫻の花が音もなくベンチの上に散りかゝる圖書館の運動場で、この話の要點丈けはお話いたしましたが、彼の時は何故だか、私には詳細にお話しすることが出來ませんでした。何日もよりは早めに仕舞つて隧道の様な地下室を拔出るや、トボ〳〵と宿へ歸つて來ました。偶に一片二片、チラ〳〵と散つて往く花はありましたが、大概は滿開で、今を盛りと、花見る人人の織るが様なる人込みの上に、ホンノリとした春陽の華やかさを見せて居ました。色手拭を冠つた一團の花見客は、呂律も廻らぬ醉ひ姿を、靜かに暮れて往く春宵に動めいて居ました。

「咲いた櫻よりも、散る花に」と、自分の心は今年の春も同じ様な物の哀れを覺へながら歩るいて居ました彼の花の下で、宮崎氏と一緒に、辻説教を試みた去年の春のことなどが、私の心頭に浮んだり消えたりしました。私は何時の間にか、お話しかけた一工女の事を考へて居ました。それは〳〵丸で遠い世界での出來事の様で、斯うして咲く花の麗はしさに醉ひつぶれて居る人達とは全く懸け放れた、離れ小島の賤しい女の身の上話みたやうにしか想はれませんでした。私は自分で夢でも見てるのではないかと許り、摺れ違ふ人々にハラ〳〵する毎に、想ひ返へして見ました。けれどもそれは夢ではありませんでした。

話は斯うなんです――

或る日、私は食後の運動に、直ぐ庭先きから擴がつた廣場を散歩して居ました。廣場に沿ふた竹垣の裡には、掘拔井戸があつて、そこではホンノリ暖かい春の



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

日光を浴びながら、其の長屋住みのお嬶さん達が、聲高かに興じながら子供の着物など洗つて居ました。

「それで美人の轢死なんですつてね、……、新聞に出されると、女はみんな美人ですよ……」

「美人と云はれりや、死に甲斐があるはよ……」

斯んな話聲が私の耳に入りました。春の空、春の鳥、春の草、春の花、春の空氣、廣つ場で見らるゝ春の凡べての姿は、私の心を外へ／＼誘き出して、天地一味の惚恍味に涵して呉れて居たのでしたが、この話を聞くや否や、骨と皮を割くやうな、豁然とした驚きが私の心に起りました。

私はそのお嬶さん達に、話の仔細を聞きました。

「ほんとに可愛さうですはね……」と、三間長屋の眞中に住む、律義さうな車屋のお上さんは云ひました。

「そうね、……、だけど「美人」と云はれりや、私も死んで見たいわ……」。

何處かの會社へ勤めてる人の妻君で、この邊では可成眼に就く顏立ちの女は斯う云つて笑つて居ました。

私はそんな浮き／＼した話を、この上その女から聞かうとは思ひませんでしたが、その若い妻君と云ふのは、轢死した工女のことが掲げられた新聞を見た女でしたから、仔細にその妻君の話を追ふて尋ねました。その工女は京橋の南小田原町の姉の縁附いて居た先きに往つて居たのです。兩親があるのか無いのか、生活向が、何うだか、それ等は新聞の雜報記事や、人の噂など丈けでは、判然と分りませんでしたけれども、印刷局へ勤めて居たとか、姉の家に寄食して居たとか云ふ事丈でも、ヤレ花見にでも出掛けやうと騒ぎ立てられる境遇の女でなかつた事は疑ふことは出來ません。

それ位ですから、お役所の休み日などに、淺草の活動寫眞を見る位が、關の山の慰みで、且つ鬱晴らしであつたでせう。

これは後になつて印刷局へ出てる女工の一人から聞いた事ですが、その工女は何んでも、近頃になつて養子を貰つたのださうです、處が、その養子縁組みの話



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しのあつた時、男の云ふには、四十圓許りの借金があるので、結婚は仕たいが、金に困るとか云つたので、四十圓位の借金なら、此方で出して遣つても好いと云ふので、養家の方でその始末をしてやることにして、養子緣組をしたのださうですが、事實は四十圓丈けでは濟まかなつたので、養家の方でも吃驚しましたさうですが、それでも我慢して事件を丸く納めて居たのださうです。勿論、この間の消息に到つては、可成紛紜が起つたに違ひありますまいが、それは人の噂や新聞記事に據つた丈けの私には何とも申されません。併しながら暮し向きが暮し向きでありながら、借金迄拂つて遣つてその男を引取らうとした娘を始め養家の人々が、何れかと云ふと、人の好い人達であつたに違ひないと思はれます、それと同時に、娘やその周圍の人達が、何れ程結婚を急いで居たか、それから又、二十三と云ふ年頃の女と十二の娘の、その結婚に對して、何れ程その心が焦り且つ躍つて居たかも想像することが出來ませう。

私のこの工女に對する知識は、これ以外深くお話することは出來ません。要は只新聞雜報を見た知識にしか過ぎないのですから、此處の處は、單なる想像の掛け橋で、知れぬ秘密を一躍して進むより外致し方がありません。併しながら、そんなに氣骨を折つて貰つた養子が、間もなくつい近所の花屋の娘と好い仲になつて、人の手前をも憚らぬ始末になつた許りでなく、遂にその男は養家を出て、その花家へ入婿に行つたと云ふ事實があります。これも人傳ての噂さですから、深い膽魂に就いては何とも云へませんが、平氣で借金を拂つて貰つたり、その借金も正直なことを話さずに、他人をペテンに掛けた樣な始末で養子に來た男ですもの、或は斯うした事柄は、ありさうな事だと、想像がされます。勿論私は、聞き嚙りの火の子程の話の種で、人間を惡玉や善玉に極めて仕舞ふやうは粗忽は仕度くはありませんし、實際、人の一生と云ふものも、左樣に簡明なものだとは、露更思ひませんが、併かし如上の事實はありさうな事だと、貧弱な經驗からは首



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

肯れるのであります。それも私のするのは世間話しなんですから、只私のこの間の見聞の事實を一通りお話しする丈けなのですから、それ程の心持でお聞き下さい。

この事實を語つて聞かせたつい隣りに住んで居る印刷局の一女工は「千代子さんは（云ひ忘れましたが、これが話の主人公の名なんです）この頃何んだか變だ……、大層沈んでお居でなさる……」と云ふ樣な噂がその室中の仲間の口から洩れた事を話して聞かせました。その一工女は從順な品行の好い女だとこの界隈で噂されてゐる娘です。一體、他處の工女達とは違つて、印刷局はお上の手が往き渡つて居る丈けあつて、工女達も、謂はゞ一粒選りと云つた樣な從順な女でなければ採用しないのださうですから、お千代と云ふ娘も、乾度さうした女達の一人として選ばれた女たつたらうと思ひます。

斯處迄書いて來ますと、白い仕事着を着た、青白く沈んで銀杏返しを結つた物思ひの娘姿が、出來たての何枚となく繋がつてる薄桃色の印紙の積んである工場で、ゴム糊をベト〳〵塗つてる娘達の中に浮んで來ます。話によると、勿論、美人と云ふ程ではなかつたさうですが、これと取立てゝ云ふ程醜い女でもなかつたさうです。一體、新聞に出る死んだ女は何時でも美人に書き立てるのが新聞記者の癖ですが、それには種んな理由もありませうが、人間が借り初めにも死を決した瞬間程緊張したものはありますまい。そしてその瞬間程、意識の集中されることも滅多とありますまい。それが一つは死美人の名辭を作るに至る所以ではないかとも思はれます。美と云ふことは必ずしも眉が遠山の霞のやうになくとも、頬が櫻色でなくとも、兎に角、人間の意識が一つの點に集中して働いたる刹那には、大概な人間の表情が、一種の美感を與へるものだと云ふことを經驗する私は、その工女が死顔も、美人と云ふに必ずしも背いては居なかつたかとも思はれます。

大變話が脫線しましたが、「美人と云はれりや、死んでもよい」と云つた若い妻君の見せました新聞により



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ますと、事件のあつた日、それはお彼岸の中日でしたがその工女は休日を幸ひに午後から淺草公園のみくに座の活動寫眞を見に往つたのださうです、その頃、みくに座では、「斧の響」と云ふ天活會社の連鎖劇の活動寫眞の外、二三の喜劇を演じて居ましたので、それを見て居る中に、劇中の人物事件が、自分の境遇にそつくらだつたので、遂うと自分も死ぬ氣になつて、その日の晩十時半頃、上野公園鶯谷下で、折しも來懸る上りの荷物列車の進行する線路へ飛込んで自殺したと云ふ事なのです。これが私の申上げやうとする事實の一切なんです。併し、それと云つても、自殺の原因に就いて、何も詳しく調べた譯でもありませんが、何んでも檢屍の際に、みくに座の引札の片端に、「斧の響」の悲劇につまされて、自分も死ぬ氣になつたと云ふ事が、鉛筆で走り書きにしたのが、血まみれになつた線路の傍に轉がつて居たので、それと分つたのださうです。

「轢死美人でも好いから、一度美人と新聞にでも書いて貰ひたいわ……」

私が新聞を見終つた時に、その若い妻君は私に向つて斯んなことを云ひました。私は堪えられない暗い氣持と、そして若い妻君の言葉の腹立たしさとに、一目散に自分の部屋に走つて歸りました。(未完)

# ローレンス夫人の來遊

西川光次郎

(一)

今回の總選擧に、婦人で選擧の手傳をしたものが、澤山あつたと云ふので、其筋では之れが、婦人參政權運動の導火線になりはせぬかと心配して、婦人の選擧



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

運動を取締る條項を設けんとすと聞く此の頃、我が同盟國英國の婦人選擧權運動界に於て、一方の大立物たるローレンス夫人の來遊近きにありとの報は、私共の耳に意味ありげに聞こゆる、夫人の來遊が、果して如何の感化を我が婦人界に與ふるであらうか。

（二）

ローレンス夫人は、學生時代より婦人勞働者の爲めに盡したいとの志望を有し、卒業後は西倫敦傳道會社に入りて勞働婦人の倶樂部の世話をして居た人であるが、千九百〇六年より婦人の選擧權運動に加はり、同年十月示威運動に參加して拘引さる、之れが始まりで千九百〇九年の二月に又拘引されて二ケ月禁錮の刑を受け、千九百十一年の五月に三度目の拘引で一ケ月禁錮され、其の翌年の三月四度目の拘引で、九ケ月の禁錮に處せられたが、此の時同志と獄中で、彼の有名な饑餓同盟罷工を企て、刑期中に出獄を許された。

先是、夫人は夫ペシック、ローレンスと共に、千九百七年より『婦人に投票權を與へよ』と云ふ週刊の一片の雜誌を發刊し、尚ほ澤山の小册子を書いて居る。何れも婦人選擧權に關するものであるのは、云ふまでもない。

夫のペシック、ローレンスは法律學者で、雜誌の發行、編輯に多大の經驗のある上に、婦人選擧權運動にも極めて熱心な一人である。此の夫婦はパンクハアスト夫人一派の會計係として、其の運動の土臺を造りしと共に、又其の雜誌により、演説によりて、日夜、全力を注いで婦人選擧權運動の爲めに盡したものである

斯かる經歷を有する夫人の來遊近きにあり、來遊の上は、何れ講演もあることならん、日本の婦人は兎も角も、其の説を熱心に聞きて、玩味せねばならない。

（三）

序手に英國婦人選擧權運動の歷史の概略を述べて置こふ。

千八百三十二年までは、英國の選擧法には單にコレコレの資格ある Person（人）には投票權を與ふとのみありて、婦人にも選擧權があつたのであるが、同年選



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

擧法が改正されて Person（人）の上に man（男）と云ふ字が加へられたのである。

斯くて婦人に選擧權は與へられぬこと〻なつたのであるが、併しソレから三十五年の間は之れが別に問題とならなかつたのである。

千八百六十七年に、ジヨン、スチユワート、ミルは議會で撰擧法に man People（男の人民）とあるを改正して、單に People としたいとの運動をしたが、彼の運動は百二十六票の少數で破れた。けれども之れよりは、毎年之れが議會の問題となるに至つた。

婦人選擧權に關する團體の組織されたのも、千八百六十七年からで、初めは其の團體、倫敦、マンチエスター、エデインボローにあるのみだつたのであるが、今は都市と云ふ都市には、必らず斯樣な團體があるに至つて居る。

示威運動も度々試みられたが、其の最も大なりしは千九百十一年六月十七日の示威運動で、此の示威運動には四萬の婦人が參加して、エンバンクメントからアルバアトホールまで行列したのである。

既に婦人に選擧權を與へ居れるは、諾威、フインランド、ニユヂランド、濠洲、及び北米合衆國の一部である。

## 汚辱の子の處分（再び）

今度の戰爭で、ドイツ兵の汚辱を受けたフランスの婦人の懷胎の子はどう處分するかに就て、フランスの識者中には眞面目にこれを論じてゐるものがある。モーリースバレー氏は「エコー・ド・パリ」紙上に斯ういふ率直な意見を述べた。それは「政府は必ず是等の兒を殺戮するであらうといふ堅い信念を持つて居る人民がある。又生母が町村長に其出を告げてから自分に手を下して殺害しても陪審官は決して處罰しないだらうといふ考へを持つて居るのもある」と。又元老議員ルイマルタン氏は獨軍の占領地に對しては一時墮胎を罰するといふ規則を廢止したがよからう。又辱めを受けた婦女子にして若し兒が出來たら私生兒として其の兒の登錄を受け、公設育兒院に託することが出來るやうにしなければならぬ」といふやうな說を唱へてゐる。政府が是の私生兒を殺戮したり、又墮胎を公認したりするやうな人道に反した手段を取る譯にも行くまいから、結局はル氏の後說に據るやうなことになるだらう。尤も母たるの天性卽ち愛のため、若しくば信仰上の關係から自分にこれを撫育をしたとて非難さるべきものではないといふ說も立つて居る。

（最近著佛紙）



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 白耳義の婦人

白耳義では、部會といふ部會の、有らゆる商店の店員は、悉く婦人であるし、牛乳配達も少數の小供を除く外は、婦人が犬に車を引かせながらして居るので、初めて白耳義に行つたものは、「此の國は婦人のみ勞働せる國ではないか」と、驚くとの事である。暫らく滯在して居ると男も勞働せる事が知れ、更に永く滯在して居ると、男と女が、ドレ位の割合に勞働して居るかと云ふ事が、明白になつて來るとの事である。

白耳義の婦人位、早起きをするものはない、彼女等は早起して、毎日セツ〳〵と勞働し、夜は早く寢る、全く娯樂と云ふ事を知らざるものの如くである。されば白耳義に於ては、大都會に於てさへも、芝居の定小屋がない、又倶樂部サーロンの類も發達して居ない、服裝の如きも至つて質素なものであるとの事だ。白耳義の婦人は、仕事がたゞ樂しみで、仕事の外には娯樂の必要を感じない樣に見へるとの事だ。

斯かる勤勉にして根氣あり、節儉にして勞働を樂しむ、婦人を有する國は幸なるかな、白耳義人が戰時に勇に、平時に又有力の人種たる、其の所以の一半は、斯かる婦人の多き爲めであると言へる。

# 露西亞の出版界

日露戰爭後、露西亞は一時其の國民に、從來に比しては非常に政治上の自由を與へた。ソコで新聞の發行紙數は激增し、政治的小册子の發刊も隆盛を極めた。されども此は一時、眞に一時であつて、抑壓の時代が又直ちに來つた、政治的の小册子はトテも發刊の出來ぬ事となつた併し一旦起つた讀書熱は之れが爲に全く冷却して了ふ事は出來ない。止むなく軟文學の小册子が續々刊行されて、其の要求に應ずる事となつた之れと共に文學の標準が低くなつたのは、之れ又止むを得ない。書物の表紙にしても、之れまではコロレンコのにしても、ゴルキーのにしても、乃至はアンドレイフのにしても、何れも澁い紙表紙が常であつたが、今は派出な表紙を悅こぶ樣になつて來た。

コウ云ふ安文學の外に、飜譯物の出版も亦隆盛を極めて居る。モスコーには婦人で此の飜譯で衣食して居るものが多いとの事だ。伯林にある獨乙留學生の多くは(勿論戰爭前の事だが)獨乙の新著を飜譯して本國の出版屋に送り、ソレで學資の一半を得て居るとの事だ。

兒童文學の如きも、大抵は飜譯もので、然らざるものは殆んどない。

露西亞にも今は、トルストイ、ツルゲニエフドストイスキーの如き大家は出なくなつた。文章の上手な人は增へたが、深い思想の人は少なくなつた、殆んど出なくなつた。

# 斯くありたき家長の心掛

芝、三島町に、菓子をあきなふ新右衛門といへるは、……春の比、遊山に出でんと思へど、われひとりにては樂しみうすしとて、櫻花の咲きみだれたるを、幾枝となく買ひ入れて、これを家の内、こゝかしこに移して、さしかざりてよき酒、さかなあまた調いさせて、妻子をはじめ、召しつかひどもにうちまじりつゝたのしみけりとぞ。(太田南畝の假名世説)



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦人職業

# 劇場案内女の内容

立石蔦枝

## △下級婦人職業

不圖した事から婦人職業として比較的劣等な劇場案内女と話す機會を得ました。其人は目下淺草の活動寫眞館へ勤めて居るのです。其人から聞いた彼女社會の内容を簡單に書いて見ませう。婦人職業上の參考にともならば結構の至りです。

## △就職の動機

就職する動機については種々ありませうが多くは家庭の生活があまりに豐かでない否、貧しい爲に其從屬する父兄達に幾分かの助力をせんとするのが目的で、中には隨分同情すべき事情柄から其社會に入つた者もありますが、大抵は親がかりで未婚者が多いのです。

## △學力の程度

尋常小學を卒業して居れば、鐵道院とか、貯金局とか、交換手とか、其他銀行會社事務員として採用せられる資格がありますから、多くは其方面に向ふので、彼女等社會には高々尋常二三學年を濟ましたものが積の山で、それ以上の學程を踏んだものはありません。

## △勤務時間

開場と閉場の都合で各所其差異はありますが、淺草などでは開場が午前十時ですから、それより約二時間前位に出勤して、多くの朋輩と館内掃除をせねばならぬのです。それに閉場は夜の十時半ですから、其後仕舞の片付けをしますからそれに約一時間位かゝります



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つまり一月の勤務が午前八時から午後十一時まで約十五時間といふ長い勤務をするのです。

### △給金の高低

新參者も古參者も同一で、唯古參者は比較的安樂な仕事へ廻されるといふのみです、先づ始めの一ケ月位は見習といふ格で日給二十錢から二十五錢位を與へられます。見習期間が明くと三十錢位が與へられます。それに大入滿員の日などは別にソバ代といふて利益の配分が受けられますが、實に僅かなものです。

### △新古參者と轉勤

仲間の古參者になると入口の札賣場や札受場へ廻されます。追々古參者が職を退くに從ふて就職日の古い者から順次其場所へ廻されるのです。中には給料の關係、感情の衝突等から長くは落付かず、館から館へと轉勤して渡り歩く者も多くあります。

### △彼女等の目的

始めは隨分堅い意志で就職したものですが追々と彼女社會の妙に變な(云へば低級な虛榮思想)調子から、種々なことを胸に描くやうになり、遂には館內事務員や辯士などと善からぬ噂が立てられるやうなこともあります。それ以外確實な目的はなく、また年齡も若いから、いづれ其うち何とかなろう位なことで日を送つて居ります。

### △仲間の樂しみ

彼女等は年中休み日といふのはありませんから大抵月二三回位は勝手に休みます。朝早くから夜遲くまで立ち切りで隨分と苦しい疲勞を感じるさうですが、彼女社會の唯一の樂しみは買ひ食が第一で一日十錢以上を使ふものが多くあります。又一所に二三人も集合すると人物の批評をしたり、朋輩の惡口をしたりして其疲を慰す位のものです。自然さうした惡風に染まるの



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

です。

### △始めの決心消滅

中にはあくまで堅い決心から他に習はず勤めて居る人もありますが、多くは月收十圓内外もあるものですから、食費位を父兄に渡して殘金は買ひ食ひ、衣類、化粧品等に費します。近頃はコッテリした化粧に黒襟着物といふ姿で、金齒の流行には驚いたものです。長く其職にある者程、精神的慢性を帶びて漸次家庭を省みないやうになります。實に悲しさの限りです。

### △就職の要領

就職するには目下其職にある者、或は館内使用人などから事務所へ申込んで置けば補欠のあり次第直ちに使ふて呉れます。別に六ケ敷いことはありませんが、あまり目下の處お奬めする職業ではありません。それとも各自の決心如何んで、幾らでも名譽ある女の出ないとも限りません。

## ペリクレスの妻アスペシヤ

久留天豪

■クレオパトラやカタリナの名を知つて居る人はあるであらう。然しペリクレスの妻アスペシアの名を知つて居る方は、果して何の位あるであらうか、然も、彼アスペシアはクレオパトラ、揚貴紀、小町等にも劣らぬ絶世の美人であつた。更に其の學識才幹に於ても優にカタリナ、エリザベス、尼將軍等に比肩するに足るものがあつたと傳へられて居る。然らば彼は一體何んな女であつたらう。

■彼の女は今から凡そ二千四百年前、即ち紀元前五世紀頃、山紫に水明かなる希臘はイオニア州の一市府ミ



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 赤裸々の女の姿を見よ

■實業之世界編輯局長＝青柳有美先生著

大評判の

# 女の話

定價一圓廿錢
郵送料八錢
四六版四百頁
布製上等箱入

女を半獸なりとせる著者の意見に憤慨する女は讀め！女の權利を主張する女は讀め！男に對して戰ひを挑まんとする女は讀め！眞の新らしき婦人なりと稱する女は讀め！讀んで著者及び男に喰って掛るべし

## 此の内容を見よ

△男女學生交際論△處女の定義△女は陽性なり△女學校卒業生への注文△男の好む女△女の悦ぶ男△女は祕密を守るや△結婚と女性研究△男女のケンカ△女子罵倒論△男子操縱術△男の心を動かす法△女子操縱術△戀は行き當りバッタリ也△美人を娶れ△骨肉は何故に婚せぬか△戀と虛榮心との關係△新婚旅行奬勵論△貴婦人は低級なれ△藝妓を輕視する勿れ△名古屋藝妓罵倒論△名古屋種が東京に跋扈する因緣△新しい女の正體△挑戰的女子の末路△挑戰的女子の自惚△轢死美人論△貞奴と桃介△問題の紅吉△初戀の三人女△僕の細君△佛蘭西をんな△伊太利をんな△西班牙をんな△獨逸をんな△英吉利をんな△亞米利加をんな△露墺白塞のをんな△抱月夫人に與ふ△丹いね子に與ふ△女優排斥論△秋田をんな△女子の文藝中毒△小野小町ば癩病系か……

東京麴町區有樂町　實業之世界社

# 勞働及産業

一冊金十二錢 半年分七十錢 ‖ 五月號 ‖ 一年分一圓卅錢（前金すべて）

# 大問題！

1. 婦人問題
2. 勞働問題

『新眞婦人』
『勞働及産業』

大判 每號七十頁

## 五月號

（筆者）

尾崎行雄　石川元亮　丹生龜吉　日向きむ
鈴木文治　相原文學士　林一男　勝田一
伊藤一隆　向軍治　柳田國之助　坂本正雄

申込所 東京市芝區三田四國町 友愛會本部

振替東京三一五一六
電話芝五八五五

# 男女應用 成美液

天性色黒き人。日にやけて黒き人。海水又溫泉にて黒く成つた人。吹き出物の跡の黒き人。本劑を用ひれば色を白くするは勿論。皮質を艶麗ならしめ。何時も綺麗に美容を保つは本劑の特色にて。皮膚病學に於て既に定論ある確實なる美容劑なり。殊に、にきびある人は是非用ひ見よ驚くべき奇効あり。

定價小瓶十二錢◉中瓶貳拾五錢◉大瓶五拾錢◉特製濃液一瓶金壹圓也送賃二錢大四錢特八錢(切手一割增)

# わきが藥

本症は頗る惡臭を放ち他人に接近するをきらはれ有爲の美男子も**交際**を缺き又妙齡美婦女も**良縁**を失ふが如き**不幸**に陷ゐる人澤山あり之れを救はんが爲數年苦心して得たる新發見藥を世に紹介す多少に係はらず本症のある人は早く用ひて幸福の人となられよ

小包卅錢中包卒錢大包壹圓送二錢切手一割增

# 子宮サック

ゴム製にして婦人衞生上必要の良器之を用へれば淋毒梅毒の傳染を防ぎ月經時には經水の漏洩を防ぎ立居を便ならしむ委細は本品に添ある能書◎病院御用指サック二個拾錢送二錢

注意御注文は成るべく振替にて東京四六七壹番寶順堂宛御拂込奉願候

甲種一個一圓◉乙種七十五錢丙六十錢送二錢

# ◎月やくの

止つた時程婦人の一大事はありません若し姙娠であれば猶身體に異狀が起る爲食物にまで變りがあります又不順でも閉止でも藥療を怠れば子宮病其他種々の病を誘發す故に月經あるべき時期に無くて逆上頭痛其他身體に障り起つた時は一日も早く專門の奇藥流經散を用ひなさい此藥なら胃腸を害す副作用もなく安全に流下し身體。。。

**ほんとに不しぎの樣**

も健全になる事です藥代は一週分五十錢半月分壹圓特製貳圓送料不要(切手代用一割增)

東京神田區五軒町大通 **寶順堂**

振替東京四六七一番

原僧運老師新著

# 禪の捷徑

敎外別傳と説き中立文字と説き而して實參實究を强ふ禪も亦難いかなしかも曷ぞ知らむ語默動靜皆是れ禪喫茶喫飯も亦卽ち是れ禪ならざることなきを果して然らば人誰か禪に眠り禪に覺め禪に生き禪に死せざるものぞ僧運老師八十年の禪生涯その行業直にこれ禪の眞諦今婆心默止し難くて敢てこの捷徑を示す寧ろ却つて大道坦坦として長安に通ずるものあらむ

總振假名　定價壹圓　郵稅八錢

**禪の第一義** 鈴木大拙先生著（第九版） 定價一圓 郵稅八錢

**達磨と陽明** 忽滑谷快天先生著（第三版） 定價一圓十錢 郵稅八錢

**禪の面目** 竹田默雷老師著（第三版） 定價一圓 郵稅八錢

**禪の極致** 大内青巒先生著（第十版） 定價六十錢 郵稅八錢

**拈華微笑** 釋宗演老師著（第二版） 定價一圓 郵稅八錢

**青巒禪話** 大内青巒先生著（第四版） 定價一圓二十錢 郵稅八錢

**修道禪話** 新井石禪老師著（第三版） 定價一圓 郵稅八錢

**禪林奇行** 菅原洞禪先生著（第四版） 定價一圓 郵稅八錢

**一休和尚傳** 高島米峰先生著（第七版） 定價九拾錢 郵稅八錢

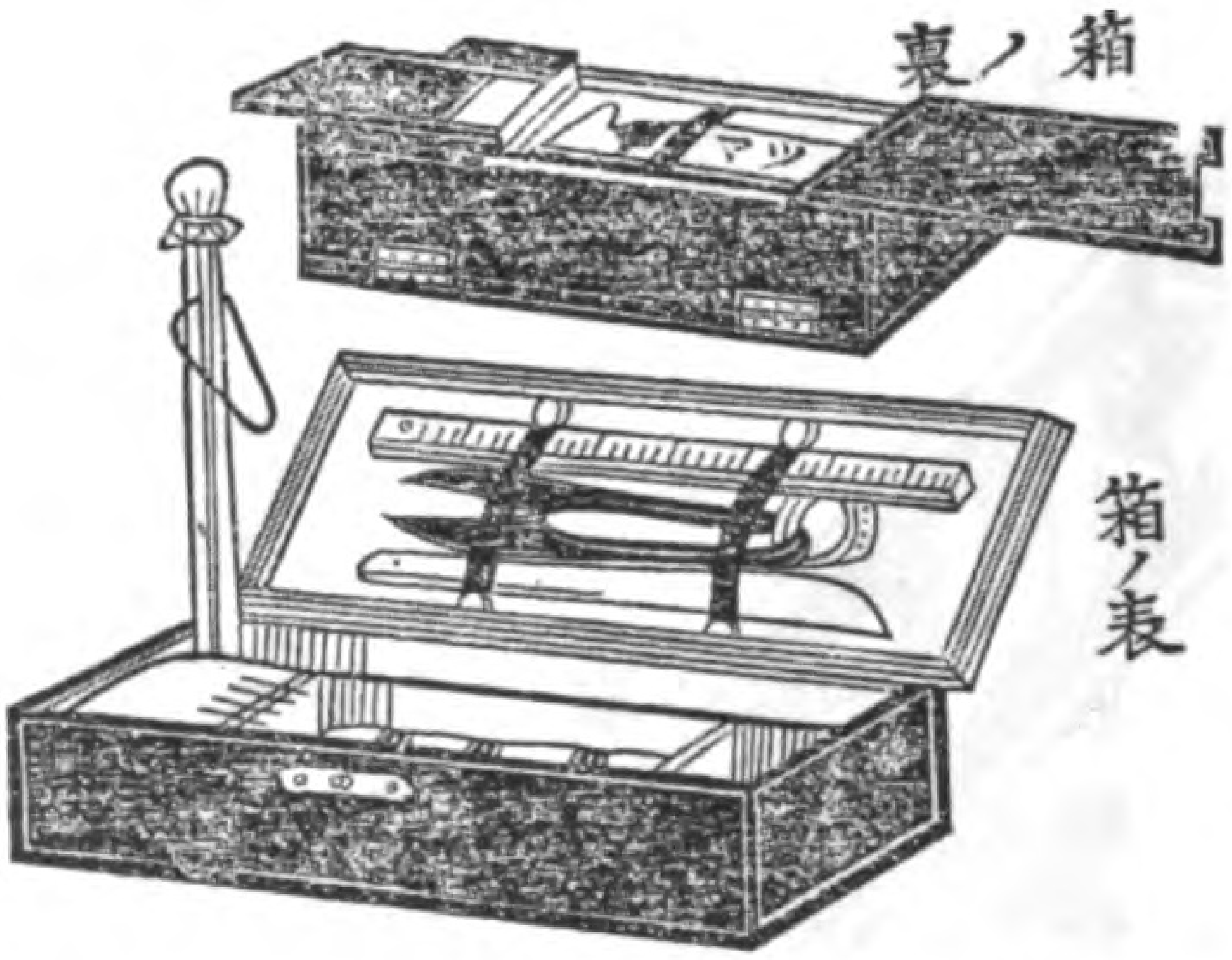
**禪の骨髓** 秋野孝道老師著 定價一圓 郵稅八錢

東京小石川區原町六　振替東京一五六八六　**丙午出版社**

東京小石川原町六　振替東京一三五三　**鷄聲堂**

女學生用堅牢無双保險付

特製 **小町はり箱**




**本墨塗製**（送料十六錢）
定價 **金壹圓廿錢**
褄形、二ッ折尺度、鋏、コテ、ヘラ、くけ臺、針差、針、糸巻、指拔、美麗二重紙箱附

**特製**（送料八錢）
定價 **金六拾五錢**
褄形、二ッ折尺度、鋏、ヘラ、くけ臺、針差、針、糸巻、指拔、美麗二重紙箱附

**上製**（送料八錢）
定價 **金五拾錢**
くけ臺、針差、附屬品留、美麗二重紙箱附
送料市内無料、海外卅錢（不苦郵劵代用）

右小町はり箱は體裁圖の如く起伏自在なるくけ臺を取付あり底板は右へ回轉して敷臺となり裁縫用具一式入れてありますから女學生諸孃の携帯に便利で堅牢です
尙御婦人方の旅行用家庭用には頗る便利であります

製造發賣元
陳列販賣處 新橋 天下堂
赤坂區青山南町二丁目十六番地 天下堂

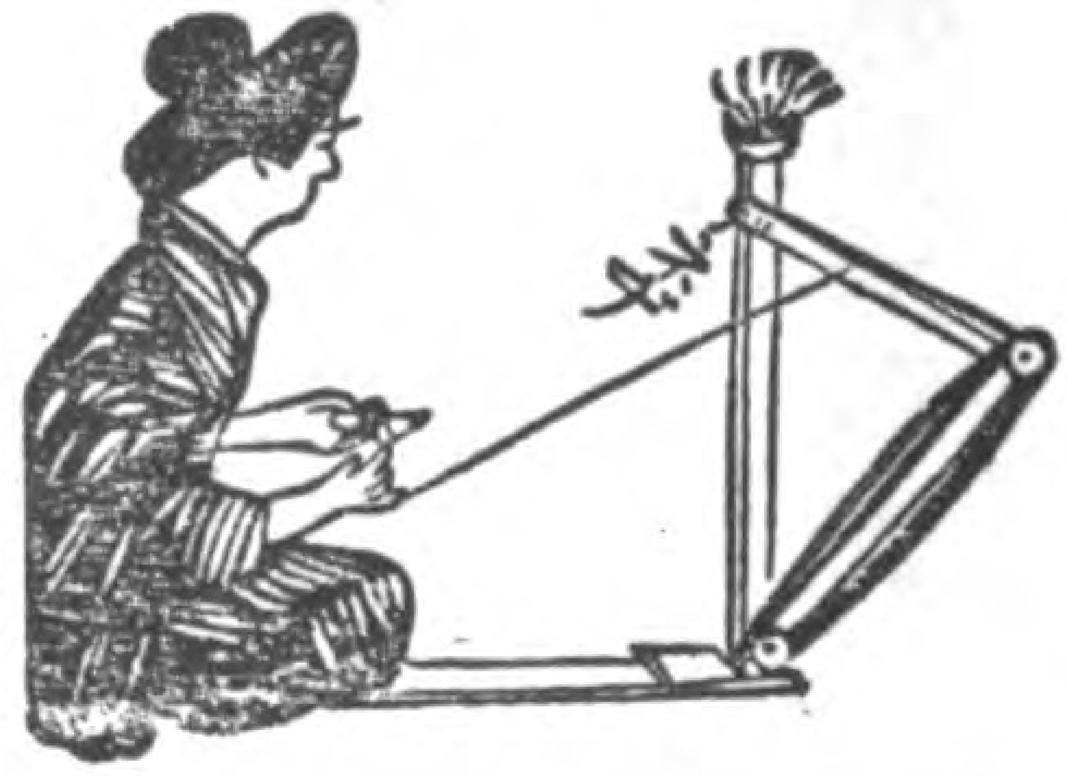
---

特許 竹中式 **絲掛附絎臺**

今回弊店に於て發賣致しました絲掛附絎臺は從來の絎臺とは異まして御婦人方の毎日針仕事に綛糸を糸巻に卷き取る時に一々人樣の雙腕を煩はし其上に糸が亂れたり「ヨゴレ」たりするが如き不便はありません

**使用法**

右絲掛付絎臺は下圖の如く下部にある二個の糸掛車を糸の輪の長短に因りて「ネジ」鋲を以て自由に「シメ」糸口を中央にある輪に通して糸巻に卷く時は二個の糸掛車は自由に廻轉して他人のお手を煩はさず糸の亂れるが如き心配なく單獨にて容易に糸巻に卷くことを得て且つ折疊んで仕舞ふことが出來ますから輕便此上もありません是非御使用を願ます



**定價**

| | | |
|---|---|---|
| 本朱塗 | 金七拾錢 | 美麗箱入 |
| 御誂黑塗製 | 金六拾錢 | 同 |
| 特製 | 金參拾錢 | 同 |
| 上製 | 金廿五錢 | 同 |
| 並製 | 金貳拾錢 | 同 |

○市内は壹本にても御一報次第無料配達可仕地方は金拾貳錢申受候

小川町 天下堂
電話芝二八八四番
振替東京三三二三

**竹中商店**


Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

東京市麴町區內幸町一丁目三番地
電話新橋長二二〇〇、二一〇一番
振替貯金口座 東京一八、九〇〇番

# 太平生命保險株式會社

社長 中村靜嘉
專務取締役 楠秀太郎
取締役 村井貞之助
取締役 內野五郎三
取締役 前川善平
取締役 倉知誠夫

取締役 左右田棟一
取締役 舟木錬太郎
監査役 潮田方藏
監査役 左右田信一郎
監査役 中田敬義

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

フランドレス膏

打身りうまちす、諸關節の痛、神經痛、肩の凝其他疼痛一切の妙膏

定價十錢・卅錢・五十錢

東京本郷區弓町二ノ三　桃春堂　振替東京二九六九〇番

# リウマチス

▲**難病**にてあらゆる療法効なく御困りの御方に不思議に早く……治る弊店家傳の……秘藥を御報らせします、御全快の皆樣から日々澤山の感謝狀を下されます一週間分七十五錢送料四錢

東京市淺草觀音仲見世。天勇横通　**井筒屋油店**

電話下谷……三一五番
振替口座一九六五二番

# 皮膚科 泌尿器科 生殖器科 婦人科 梅毒科

腎、膀胱、尿道、睪丸、攝護腺ノ疾患

男女生殖器機能障害

**診察時間**
午前八時ヨリ十二時
午後四時ヨリ七時

日本橋區通二丁目白木屋出口前

ドクトルメヂチーネ　**中島鎌太郎**

電話本局三九八〇番

# クスリは薬ホシに限る

## ホシ風薬
四季引風▲頭痛▲發熱▲流行感冒▲痰咳等凡て熱性

三包五錢　七包十錢　十五包二十錢

## ホシ痔剤
痔疾一切▲脱肛▲出血を止む

二個入十錢　五個入二十錢　十個入三十五錢

## ホシコロダイン
胃病▲腹痛▲中暑▲食傷▲吐瀉▲溜飲▲眩暈

小瓶十錢　大瓶二十錢

## ホシビーナス
腦病▲神經衰弱▲耳鳴▲ヒステリー▲鼻茸▲不妊症

小瓶二十錢　五十錢　大瓶一圓

資本金百萬圓

# 星製薬株式會社

東京市京橋區南傳馬町三丁目

電話京橋(特)一七八五番三〇二〇番三二一三番（振替東京二〇五二二番）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

リタスに呱々の聲を擧げたのであるが、貧しき彼が家は、憐れにも彼の女を賤しき遊君とならしめたのである。然し乍ら天性怜悧な、そして身を持する事高き彼の女は到底尋常一樣の娼婦を以ては滿足する事が出來なかつた、だから彼の女の美貌に憧憬れて慕ひ寄る殿原も尠なくはなかつたが、彼は苟も當代の名流でなければ身を許す事を肯せなかつた。

斯くて彼は程なく愛人ペリクレスの後妻となつたのである。

■讀者も御承知の通り、此のペリクレスはアテネ隨一の民主的大政治家で、政權を握る事、實に三十年、遂にアテネをして文化の中心とならしめ、後人をして『アテネは藝術家のイエルサレム也』と迄嘆美せしめた偉人である。

■始めペリクレスは親戚の一婦人と婚してザンテッパス、パラ、スの二子までも擧げたのであるが、どういふものか琴瑟の和を得なかつたので、ペリクレスは妻の懇願によつてこれを離別し、その後添として豫て鍾愛してゐたアスペシアを容れて妻としたのである。されば二人の間の交情濃かなるは云はづもがな、彼は幾許も無くして玉の樣な兒を儲けたのである。

■アスペシアの容貌は花の如く美はしく、且つ其の學識は可なり深いものであつた。ペリクレスは素より彼の女の美貌を愛した。然し乍ら彼が此の一賤女を自分の妻としたのは、實に彼の女の豐富な智識と、卓越せる經綸の才とを愛したからであつた。彼の女が如何に窈窕たる美人であつたかは、時人が彼の女を評して『ジユーノー』(天國の女王)の再來と呼んだのでも想像することが出來る。又其の學才のあつた事は、ペリクレス一代の雄辯と稱せられて居る、セーモスの所謂『弔演說』の草稿が彼の女の手に成つたといふ事でも充分窺はれるでは無い乎。

■ペリクレスは當時アテネの政權を一手に掌握してゐた大立者であつた。加ふるにアスペシアは前に述べた如く、才色兼備の賢婦人である。偉人と美人。果然、彼の邸宅は當代一流の哲學者、政治家、文學者の集會



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

所とはなつた。

■アナクサゴラス、ゼノ、プロタゴラスといふ様な哲學者、エスキラス、ソフオクレス、ユークピデス等の文學者達は、屢々彼が邸宅を訪問して、終日文學論や哲學論に耽つたものである、又彼の有名なソクラテスの如きも友を率ゐて度々彼が邸を訪れたといふ事である。

■然もこゝに特に注意すべきは、これ等の人が來る時には多くは自分の妻を携へて、アスペシアと談話せしめ、以て其の感化を得せしめんとした事である。アスペシアはもと一個賤しむべき娼婦である。然も此の事實あり。以て彼の女が如何に傑出せる女であつたかを想見するに足りるであらう。

■アテネの文明はやがて爛熟して來た。爛熟は腐敗を生む。斯くてアテネの背後には黒い『滅亡』の魔の手が擴げられたのである。而して此の魔の手といふのは實にアテネとは――特にペリクレス――犬猿も啻ならざるスパルタであつた。兩國はアテネがコルキラの爲めに援兵を出したといふのが原因となつて遂に干戈を交ふるに至つたのである。

■アテネは始めこそ有利で、スパルタを屢々危地に陷れたが、然し其の獨特の野戰の妙技にはアテネは随分苦しめられた。アテネ軍はペリクレスの命に從つて城壁深く立籠つて只闘防戰に力めてゐたが、不幸にも城内に疫病が流行し、これが爲め多數の人民を斃死せしめたのみならず、ペリクレスは其の妹を失ひ、遂に其の愛兒ザンテツパス、パラ、ス兩人をも奪ひ去られたのである。これには流石剛毅不屈の彼も喪神せざるを得なかつた。殊に彼が遺憾に思つたのは、これが爲め由緒深きペリクレス家が斷絶せらるゝ事であつた。

■彼とアスペシアとの間には愛兒がある。然し乍らアスペシアはイオニアの出であるから、兩親共にアテネの出生に非ざれば、アテネの市民權を獲得する事が出來ないアテネの國法では如何する事も出來ない。然しアテネ人は恩人たるペリクレスの心中に同情を表せざるを得なかつた。其處で遂に國法を枉げて、其の子に



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

市民權を與ふる事を許可したのである。ペリクレスの喜こびや如何に。更にアスペシアの滿足や奈何。

■さはれ此の喜こびは束の間に消えて、ペリクレスも同じく疫病に罹つて四二九年、滅びんとする社稷を眼の前に見ながら二兒の跡を追ふて此の世を去つたのである。

■アスペシアはペリクレスの沒後、一煽動政治家たるライシクレスと共棲したそうであるが、プルタークの傳ふる處に依れば、ライシクレスは彼の女と同棲した爲めに、一躍アテネの名士中の一人となつたとの事であるが、これを以てしても彼の女の聲望の程度を窺ふ事が出來るではない乎。

■終りにペリクレスが如何にアスペシアを愛してゐたかの一例を擧げてペンを擱く事にしやう。ペリクレスも、アスペシアも共に日頃哲學者たるアナクサゴラスと交際をしてゐたが、其のアナクサゴラスが反對學派のために無神論者との告發を受けこれが爲め死刑を宣告されたが、これと同時にペリクレス夫妻も同名の下に法庭に引かれた事があつた。處がペリクレスはアスペシアが罪に陷るのを見て衷心憂慮に堪えず、自から辯護の地位に立つて百方辯解を試みた。然も情迫り語塞がり爲めに充分得意の雄辯を揮ふことが出來なかつたが、恰かも自身告發せられてゐるのを忘れたかの如き、聲涙共に下るの槪ある彼の辯護は、深く判官の心を動かし遂に無罪の宣告を與ふるに至らしめたといふ事である。

Athens, the eye of Greece, mother of arts
And eloquence, native to famous wits"

■和合の說明　先日の東京日々の雜記帳に二三日前阪谷男爵が或る結婚披露席上で演說をやつた ▲その中に夫婦和合といふ和の字は食を共にするといふ字である、又英語で和合をコンパニオンといふがこれはパンを共に食べるといふ事である ▲どうか家庭でも晩飯を共にする位和合したいものだと云つて大喝采、ドゥヤラ御自分の夫婦和合の說明のやうだといふ評判と書いてあつたが、私はこれを面白く讀んだ夫婦、親子は、成るべく多く食卓を共にすべし、之れ實に家庭平和の秘訣である。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 賤機

さわらび

女主『ねえ老婆や、此頃あの横丁から來る子は如何したんだらうね、ちつとも貰ひに來ないぢやないか、私は乳が張るわ』

老婆『オヤ左樣ですか――ぢやあ絞る物を持つてまゐりませう、さう云へばちつともあのお父親さんは見えませんが矢張男の手一つでは育てきれないで他へやりでもしたのかも知れませんねえ』

女主『それなら連れていとまごひに來さうなものだねえ』

老婆『ほんにそれはさうで御座いますね』

女主『何處へも行きはしないのだよ今朝も家の前を通つたもの、彼の赤ん坊の泣き聲はもう私によくわかる』

老婆『それはよその子で御座いますよ、ゐればキツトいたゞきにまゐりますよ』

女主『だつて私がちやんと見たんだもの、聲がそれにちがひないから直に窓の障子をあけてのぞいて見たの、さうしたらあのお父親さんがいつもの縞の、のゝこ一枚に、白い兵兒帶の結ひつけ背負をして火のついたやうに泣くのをゆすりながらあるいて行つたよ』

老婆『オヤまあさうで御座いますか』

女主『私が一寸〱つて呼んだらね、こつちを見て妙な顏をして急いで行つてしまつたよ』

老婆『へえ………』



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女主『どうしたんだらうねえ、あんなにもよろこんで毎日〳〵貰ひに來たのに――老婆や私の乳は飲ましちや惡いの?』

老婆『いえいえそんな事は御座いませんよ』

女主『だつてお前、ポチにも此頃やらないぢやないか何故井戸端へ捨てゝしまふの?』

老婆『…………』

女主『老婆やお前泣いてゐるね? 何故泣くの? 私は肺でも惡いのかねえ、本當の事云つとくれ驚きはしないから』

老婆『いゝえいゝえあなたはそんな御病氣ぢやないのです少しおつむりが惡い丈なのです、最早なんにも御考へなさらないで靜かに呑氣にしていらつしやらなくてはいけないので御座いますよ』

女主『太田先生がさういつたの、何、私はあたまなんか惡かありやしない、よしんば少し惡くつても乳を飲せたつて何でもないぢやないか』

老婆『でもねあなた、もうお乳もあげておしまひになつた方がキットおよろしいので御座いませうよ――あなた久しぶりで何かお浚ひになつて老婆やに聞かして下さいまし三味線の音をしばらく伺ひませんから伺ひたくなりました。

老婆やは女主がまだ何とも答へないさきに三味線かけからとり下して、女主の前に置いてまた次へ立つて行つた。

女主はものうさうにそれを取り上げてうこんの覆ひをのけて水調子で二上りに合せた、そして爪びきで――

だるま、みゝづく風ぐるま、よそのこどもを見るにつけ、うちの坊やも今ごろは賽の河原で小石積む。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

老婆『あなたそんなのはいけませんね、もつと陽氣な氣の晴れるやうなのを伺はせて下さいまし』
女主『むづかしい注文をおしでないよ、馬鹿らしくて陽氣なもんなんか彈く氣になりはしないやね』
老婆『ではせめてばちでも大きくあてゝあなた』
女主『ハイハイかしこまりましたそれではばちをあてまして』。（狂亂の前彈をひく）
老婆『オヤ保名で御座いますか？』
女主『いゝえ』
ウタと『夏も來る空も霞の瀧の糸、みだれて名をやながすらむ　唄『笹のおざさで風いとひ住ひしかひもなさけなや花とめでにしうない子がひと商人に誘はれて行衞いづれとしらゆふの神にいのりのみち尋ね、いさゝむら竹手折りつゝしできりかけてつゝみ草、鳴海なみだの雨しぼる悲しさ辛らさはかなさの竹に憎さの風たまる空ながめても情けなやアレ雲間ゆく三日月のかた〳〵水に影うつす、聲をきかねば顏も見ず——
女主『老婆やこれも詰らないねえ』
老婆『詰らなくは御座いませんけれどやつぱり陰氣で御座いますね』
女主『ちやひとつ陽氣な處まで飛ばうかね』
チチツントトトン——一代敎主の釋迦牟尼如來の說法なんどは、華嚴、阿含、法等、般若、法華、涅槃、法相、律氣の里がよひ、チチツントトトン、——傾城ぐるひ、物ぐるひ、狂へばくるふ我が子を慕ふ總じて浮世のありさまはちよきさに追ひてや——（表の格子あく）
老婆『どなたさま？　オヤ小やな姉さん、よくまあ、今困つてゐた處です、奥へいつてお相手してあげて下さい』
小やな『姉さんは本當にお惡いの？』



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

老婆『え丶、どうもさうらしう御座んすね』

小やな『こまつたわねえ』

老婆『なるべく赤ちやんの話はよして氣の浮くやうなことを云つてあげて下さいよ』

女主『ばあや、ばあや』

老婆『ハイ、ハイ』

女主『誰か來たの？』

老婆『小やな姉さんです』

女主『オヤさう、やなちやんこつちへおいでよ、賤機を始から一緒にさらはうか』

小やな『ハア、長唄のですか？』

女主『い丶え一中節の』

小やな『姉さん私ありませんわ』

女主『さう、まあこつちへお入りよ』

小やな『姉さん今日は』

女主『ハイ今日は、景氣はどう此ごろ？』

小やな『しづかですよ』

女主『さう………』

小やな『姉さん何か浚つてきかして下さいな』

女主『今日はみんな妙に聴きたがる日だ事！　私は彈きたくない日だわ、何か面白い話はないの？』



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

小ヤな『さうですねえ面白い話は――澤山ありますけれど……』
女主『けれども如何したの？　しまつて置くの？　罪な人だねえ、少し蟲干しをおしなさい、私がきゝ役になつてあげやう』
小ヤな『まあ姉さんからおひろげなさい』
女主『オヤ憚りさま、私の方はもう賣り切れてしまつてね、あゝあゝそんな戯談を云つてゐるうちは花だわねえ』
小ヤな『このごろ誰かあそびに來ましたか新橋の人たち？』
女主『いゝえ、誰も來ないわ、だから寂しくつてね考へごとばかりしていけないのさ』
小ヤな『ちつと姉さんお出かけになつたらいゝでせう、外へ出ればやつぱり氣が晴れますよ』
女主『晴れる時もあるけれど此間などは通りの伊勢久の店に墨繪の龍のいかにもよくあがつたどうしても友仙縮緬としか見えないメリンスがかけてあつたのを見てね、あゝあの子が生きて家にゐたらあれに、白羽二重の裏でもつけてひろ袖に縫つてね、襦袢の襟は淺黄繻子にして、着せて抱いてあるいたら大きい人形のやうに見えるだらうなんて思つたら急に悲しくなつて、かへつてから二日も寢てしまつたのよ』
小ヤな『もう姉さんその事は忘れなければいけません、思ひ出すのは罪だつていひますよ、第一からだを惡くしてしまひますよ』
女主『惡くなつて私もあとから早く逝きたい』
小ヤな『なんですねそんなことを、死んで花みが咲くかいなといふぢやありませんか、惡い夢を見たと思つて諦めるより仕方ありませんわ姉さん』
女主『けれどやなちやんマア考へてお呉れ、思へば思ふほど口惜しいぢやないか、あつちへとつてしまはなければ


Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

乳ばなれにもなりはしないし、蟲だつて出やしないのに、無理に連れてつて到々殺してしまつて……聞けば奥さんが產んだ事に直ぐ屆けてしまつて私などはもうけして母さんなどとは呼ばせないやうにすると云つてゐたさうだもの、この間お邸からお使ひが來た時、わたし散々云つてやつた、金で子供は產みませんつてね、誰が賴まれて商賣に生命がけの苦みをして子を產む者があるものか、ひとをつけ！』

小やな『姉さん姉さん、あなた落着いていらつしやらなくては毒ですよ』

女主『私はどうもしてやしないよ——籍なんか誰の子にしたつていくら、お母さんなんて云はしたつてお腹を痛めたのは私なんだもの本當の親は私にちがひないんだもの、大きくなればまんざら知らないとはいふまいとはかない事もたのみにしてじつと我慢してゐたんだけれどとう〳〵死んでしまつたんだもの、あゝきつと乳が足りなかつたんだ、夜泣いても起きてやらなかつたんだらう、おむつだつて氣持よくしてやりはしなかつたんだらう、寒くても着せてやらなかつたんだらう、どんなに泣いたらう、どんなに怨んだらう、あゝ母ちやんが惡い母ちやんが惡い坊や母ちやんが惡かつた勘忍してお呉れよ、今にお前のゐる處へいつてあやまるよ、さうしてたんと抱つこしてあげるよいつまでも〳〵はなさないで抱つこしてあげるよ』

小やな『あゝ姉さん姉さん、もうその事はよしてね姉さん、今日はね姉さん、あなたにおこつてもらひに私來たんですよ、おこる事があるんですよ。もう〳〵泣いてはいやですよ姉さんサアおこつて下さい』

女主『あゝおこつてあげるとも、家中のものをお菓子にしてもおすもじにしてもおこつてあげるよ、もう何もいりはしないんだからね』

小やな『家中のものくらゐちやいやですよ、一寸姉さん、姉さんてばさあ』

女主『なんだよ、やなちやん』



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

小やな『まあお聞きなさいよ此間ね本石町の若旦那にね一寸お目にかゝつたんですよ』

女主『へえーさう』

小やな『まあ何だか氣のない返事！　それでね姉さんいゝ話があるんですよ』

女主『御馳走さま』

小やな『あらお門ちがひ、それは私がいふ事ですよ』

女主『オヤなぜ？』

小やな『あの方ね本當に眞面目ないゝ方ですね』

女主『やなちやんの岡惚れだつたつけねえ、オヤもう三年になるよ、濡衣の役でもつとめやうかね品によつたら……』

小やな『それぢや二人濡衣になりますわ』

女主『オヤお前さんも濡衣？　お姫様かと思つたら』

小やな『姉さん、あの方の世話になつて赤坂の殿様を見かへしておやんなさいよ。若旦那は本當にまじめですよ、姉さんさへその氣なら家へ入つてもらつてもさしつかへないとまで云つていらつしやるのですもの、戯談のけて』

女主『今更私がそんな事も出來まいぢやないか、人の子まで產んでおいてさ、あんな立派な若旦那には堅氣からいいお嫁さんをとつてあげておひな樣のやうに並べてお店にちやんと座らせて見たい』

小やな『けれどね姉さんあの方は本當に姉さんの身の上をおもひやつていらつしやるんですよあれ程までにおつしやるのをうけないなんて勿體ない、本當に男らしい方ですわ、此間お目にかゝつたといふのは、柳亭さんで、



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

若旦那はおつむりが痛いつて藏前の六疊に橫になつていらつしつたの私そこへ御あいさつに行つて少しの間おつむを揉んであげてゐるうち、そんなお話を伺つて本當に實のある方だと思つたら淚が出ましたわ、あの廣いすべつこい額、一の字の眉毛、高い鼻、きり〳〵と緊つた男らしい口、かうふし目になつていらつしやるのを枕の方からつく〴〵見ると、いつぞや姉さんと十軒店に行つた時本當にいゝつてほめた、あのそれ、大きい何の尊でしたつけね、あの――日本武の尊、あれによく似ていらしつたわ』

女主『まあやなちやんのほめる事！　そんな實のある立派な男を勿體ない、私なんかにかゝはつたら、ろくな事はありやしない、それでなくても貝月の女將だの三島さんの御新造が見張をつけてゐるくらゐ若旦那を思つてゐるといふぢやないか、矢張苦勞の種蒔きさ』

小やな『そんな事なんでもありやしませんよ、三島さんの御新造はまあいゝけれど貝月のおかみさんなんて一體姉さんいくつだと思つて？　若旦那とはまるで親子ぢやありませんか馬鹿らしい！』

女主『馬鹿らしいのが世の中さ、私なんかも本當に馬鹿らしくて話にもなりはしない、男なんて面倒臭い、金で買へれば世の男を藏に一杯買ひためて置いてほしがる女にのしつけで、ぼん〳〵はじから呉れてやりたい』

小やな『姉さんあなたは本當にお惡いのかも知れないわねえ』

女主『けれど若旦那は深切な人だつた、私は可愛い弟のやうな氣がするわ、私が身の上ばなしをした時にあの人本當に泣いて呉れたものねえ……』

小やな『それだのに姉さんは……』

女主『可愛いからつて何もいろにならないでもいゝぢやないか』

小やな『オホヽ、それは姉さんさうですけれど家へ入れるとまで云つていらつしやるのぢやありませんか』



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女主『だつて弟のやうな人に——氣はづかしいぢやないか、氣にいれば直に口說くやうな貝月のお女將なんかと一緒にされてたまるものかね』

小やな『あらそんな事を何もいつてやしませんよ一緒にしやしませんよ』

女主『わからないねえ一緒にしてもしなくても面倒臭いつて云つてるんぢやないか』

小やな『ぢや姉さんもうその話はよしませう』

女主『……あれは一昨年の丁度今頃だつた、歌川の茶座敷の椽に立つて私が若旦那を送り出した時、庭はもう暗かつた、若旦那がかな燈籠の火影にしばらく佇んでゐて、やがて思ひ切つたといふやうな風に身をかへして二三間ばかり向うへ行つたころ『あ一寸』と私が呼びとめたら、また引き返して來て『何？』つて云ふから『もう一度さやうなら』と云つた事があつたけれど、今考へれば、あれも別れの夢の場だつた』

小やな『夢といへば面白い夢の話をしませう姉さん』

女主『私ねやなちやん昨夜いやな夢を見たのよ、何だか斯う葦がそこらに一ぱい生へてゐる中でね、變てこな聲で何かゝ鳴いてゐるだらうぢやないか、何んだらうと思つてね、そばに釣をしてゐる人に聞いて見たら、あれは三ケ月でとりあげばゝあにおろされた赤肌の赤ん坊が泣くのだつていふの、その聲つたらなかつたよ』

小やな『おゝいやだ！』

女主『それもやつぱり坊やかも知れない……』

小やな『又姉さんは——困つたねえ——姉さんはまだ若いんだから、産まうと思へば子供なんかいくらでも産めますわ玉のやうな赤ちやんを産んで私におもりでもさせて下さい』

女主『産めるものなら産みたいねえ、けして死なゝい赤ん坊を、赤ん坊つて、可愛いものさね、男なんかいらなく



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なるほど可愛いものだよ、私は男に用はない』

小やな『オホヽヽ、それぢや姉さんひとりで生むつもり？　お父様なしで？』

女主『なくつたつていヽやね、ゑびす様にでも申し子をして生むさ』

小やな『まあ！　でも七福神の唄のやうに「骨なし皮なしやくたいなし三とせ足たち給はねば」なんか困りますね』

女主『いヽよ、いヽよ、いヽよ、たんとそんな縁喜の惡い事をお云ひ、どうせみんなに呪はれて滿足な赤ん坊なんか生れやしないんだ、生んだつて又死んでしまうんだ』

小やな『姉さん勘忍して下さい、ね姉さん勘忍して下さい、ねえ姉さん、私惡い氣で云つたんぢやありませんから――どうしたらいヽだらうねえ――ばあやさん、ばあやさん』

老婆『どうしたのですねえまあ、だから私がいはない事ぢやない、氣に障る事は云はないやうにとはじめから云つておいたのに……』

小やな『ね姉さん、勘忍して下さいね』

老婆『どうぞ勘忍してあげて下さい』

女主『いヽんだよばあや、かまはないでお呉れ、どうなるものかね』

小やな『あら姉さん何處へいらつしやるの？』

女主『何處へ行つたつていヽよ』

老婆『よくは御坐いません、どちらへいらつしやいます、私もまゐりませう』

女主『來なくつたつていヽよ、うるさいね大木戸の妹の家へ行くんだよ、行つてうんと泣いて來るんだよ』

老婆『それならあなたお召かへでもなさつてからさうしておぐしもなでつけなくてはみつともなう御坐んすよ』

小やな『大木戸のお妹さんだつて、そんな風して急にいらしつたらお驚なさいますわ、姉さん、姉さん、姉さんてば』

女主『オヤ一寸靜に――それ――何處かで赤ん坊が泣いてゐる――　（大正三、一一、二二）



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# サアニンを讀みて

長田雪枝

もう餘程以前の事ですが、私はアルチバアセフの「サアニン」を讀みました。いつも大きな書物を讀んだ後では、そのうけ入れた印象があまり強く深い爲、何の事か分らない樣な氣持になります。それにこの小說は、女の一生や人形の家などの樣に、或る一つの事件が順序よく進んでゆくのではありません。サアニンと言ふ剛健な個儻不覊な一青年を主人公として、その言行によつて新らしい主義を描いたものであります。尙「サアニン」は徹頭徹尾肉慾の小說であります。私の如き小さな思想の者には、一種の恐怖を感ぜずには居られませんでした。併し決して彼の低級な小說に見る樣な劣情を挑發する猥な處がなく、浮薄な遊戯的な分子はすこしも認められません。

主人公のサアニンは徹底した個人主義と現實主義の上に立つた性慾讃美者であります。彼は斯ふ言つて居ります。『よしや肉慾が惡事を伴ふにしても、肉慾自身がその責を負いはしない』と、また斯ふ言いました。『僕は唯一事を知つてゐる、僕は生活が僕にとつて苦痛でない事を欲する。それが爲には自然の慾求を滿足させなければならぬ。』と、この自然の慾求とは主として肉慾の衝動を指すのでありませう。

サアニンは人間の根本的幸福は肉慾の滿足であると言つて居ます。そうしてあらゆる高尙な種類の感情を否定して居ります。卷中に表れる人物は皆、若い美しい人たちで初から終りまで肉慾的の色彩で飾られて居ります。

此書の卷頭に傳道の書七章の、「我さとれる所は唯是のみ、卽ち神は人を正しく造り給ひしに、人多くのてだてを考へ出せるなり。」の一節が記してあります。サアニンは此語の如くすべてのてだてを排斥して、自然のまゝに生活して行かふとする人であります。どこまでも本然の性のまゝに、赤裸々の姿で生きてゆかうとする人であります。『隱すな、歎くな、反問するな、姦淫するなとか言いますれ。ところが此等の事をしたい心が人間に確然と根を下してゐる事は何よりも大きな事實なんです。」彼は道德などと云ふものは唯虛飾僞善を强ふるものであると云いました。

「無賴漢は何よりも先ず正直で公平な自然な人間です」。「無賴漢のする事は、人間に全く自然な事です。彼は彼の所有でない物を見て、それが氣に入るとそれをとる、自分に從はない美しい女を見ると、暴力でなければ惡計でとるんです此事は極く自然です、と云ふ譯は、享樂の理解と渴望は人間と禽獸を區別する僅少な條件中の一つですかられ。禽獸愈禽獸と下れば享樂の事は少しも知らない、又それを求める事も知らない、唯その本能によつて動くだけです、僕は信じて居ます、誰にだつて分りきつた事ですがれ、人間は苦しみ惱む爲に生れたものぢやありませんよ。」こんな事を言つて彼は無賴漢を讃美して居ります。

サアニンにリダと言ふ美しい妹が有つて、ある輕薄な士官と私通して姙娠した。リダがそれを恥ぢて投身し樣とする處をサアニンが見つけましたが、その時でさえ彼は妹に唯本能によつて動く事のみ敎へました。『まあ御覽。此の世界は何と一切美しい事だろ――。ね、太陽は照つてゐるし、水は流れてゐるし……生きて居るさ。死より忌々しい事はありやあしないよ。』腹の子は墮胎せよ、而して更に新らしい戀に生きよと云いました。尙彼が再度の戀をすゝめた言葉に、「……それ共ほんとに彼を好かないか、えおい、それなら僕と道行をやろうぢやないか。……何處だつて面白く暮せるよ。」サアニンの性格はこ



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

こに最もよく現はれて居ります。何と言ふ憚りのない心持であろう。唯自己の命ずるまゝに動いて少しも他を憚ると言ふ事をしない。

リダはサアニンを決して尊敬しては居なかつた、利己主義で不道徳であると思つてゐた、けれ共彼女は唯兄の前でのみ氣が自由に暢となつた。妊娠した、いゝそれがどうした、男と關係した、結構ぢやないか、人に輕蔑される、それが怎うした、こんな調子で彼の前には一切の事がたゞもう簡單な譯のないものになつてしまふのであつた。だからリダは種々な事が身に迫る度に兄に教へをうけました。

サアニンはいかなる場合にも生を愛した。何物にも動かされると云ふ事がなかつた。常に冷靜であり得た彼はサルウヰンに決闘を申し込まれた。時でさへ「僕はあの人を殺す氣はありません、次にこの方が肝要な點ですが、僕自身があの人に殺され度くありません。」と平氣で云つて拒絶しました。實に堂々たる態度であります。

彼が言つた言葉に、「人は戀愛を享樂し貪り味ふがいゝ、何の恐ろしい事もない諦める要もない。全然何等の制限も要らないんです。然うすれば戀愛の形も偶然と不意打と結合との限りない連鎖になつて擴りゆきます。」彼はその言葉の如く深くユリイと言ふ青年を愛するアルサイナを、一瞬の間に自分の意志のまゝにしてしまいました。

サアニンは殆んど感激とか咏嘆とか云ふ事を知らなかつた。その友が死にかゝつて苦しんでゐる傍に、常の如く靜かに見て居る事が出來ました。又ユリイが自殺してその葬式の日に、一人が彼に悼詞をのべて貰ひたいと頼みましたが、彼は腹立たしげに「何を色々云ふ必要があります、此世界に馬鹿が一人減つただけです。それだけです。」と力の籠つた聲で暸然と云いました。この樣に彼は心のまゝを憚りなく云いました。悲しくもないのに悲し想な顔をすると云ふ樣な虚僞を絶對に斥けたのであります。

この書の結末の、サアニンが朝明の曠野の彼方に昇る太陽に向つて堂々と濶歩する所は、何とも云へない爽快な明るい氣分を覺えました。サアニンの偉はこゝに結晶されて居ります。ここが全編の焦點と云つてもいゝと思います。

私はサアニンを讀んで、その新らしい生活主義に、唯々驚きました。自分の生活の上にヒントを與へられた點も少くありません。併し私はそれを學ばうと思いません。(終り)

# 蛙聲會の記

四月二十二日の午後芝公園清光寺の境内なるみち子さんのお宅で例の會を開いて下さつた。今日は重大問題についての御相談があると云ふのでいつも御來會にならぬ珍らしい方々へも通知して下さつたけれど集まつたのは、御近處の高橋里子さんが可愛らしい孃ちやんを抱つこして來られたのと、朝子さんと私とが一番に落合つたのと、次に山口孝さん、次に平澤福子さんと其の御夫婦役の樋口さんがどつしりと四角張つて來られたのと、最後に日向さんときよ子さんと、これも御一しよに來られたと思つたらお玄關で落合つたのだの伺つて不可思議に思はれた。それ／＼御夫婦の樣だと云ふ話から、大阪日々に新眞婦人の事を書いた序に同性愛があるかの樣に書いてあつたが、そんな事を云ふといよ／＼誤解されると笑はれた。併かし皆それぞれ御良人に熱い人達ばかりだから只お友達としての一對だと云ふ丈。Mさんは、男の中には、自分の夫以外一寸夫にして見やうと云ふ樣な男子も見當らないが、女には結婚して見たい樣な人がいくらもあると云はれる。Kさんも私も、だから私が男だつたら結婚しないかも知れない、あまり好きな人ばかりあつて一人の婦人をお友達にしてゐられないから。今日は複雜極まる人生の煩瑣な問題がつきつめて研究された、内容は公開するにはあまり惜しい又餘白がないからかくしておく(文子)



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 奥さんとお神さんの處世法

## ―家庭のクリマワシの上手下手―

島田筑波

私がこれまで出喰はして來た經驗によりますと、どうも奥さん呼はりをされてゐます御婦人方は、虚榮心ばかり强くつて、彼の世間から山の神呼はりをされてゐます裏店のお神さんにも、家庭のクリマワシに就ては遙かに及ばぬ者が多いのに、つくづく呆れ返へることがしばしばでございます。

このことについてすこしく私の經驗した實地の御話を申上げましよう、私の知つて居ります者で可成り世間にその名を知られてゐます方で、奥さんの家庭のクリマワシの惡いために、ひどく零落てしまはれて他人の家の間借りをいたしてゐますもの丶奥さんが、私に對つて貧乏暮しのつらひ事をば縷々述べ立てた結果、

「なんですよ、この間もこんなことがありましたのですよ、亭主が困るものですから遂々あの長火鉢を賣つてしまつたのですよ、すると瓦斯屋が參りまして家の困る樣子を見まはし、お神さんどこを直しますのですてぞんざいな口のきゝようをするんですよ、すこし困るともうすぐそうなんですからねえ、この間まで奥さん呼ばはりをしてゐたものがそれですからねえ……と口惜しさうに申されましたので、私はなんと云ふ恥さらしの女であらうと、そのかくまで零落れても、まだ眼が覺めずかうした虚榮に憧がれてゐる淺間敷い心を氣の毒に感しました、こういふ婦人に限つてよく亭主の無能を喋々されるものですが。私もそうまで露骨に素破抜くわけにも參りませんので、

「さうですかねえ、それが世間なんでしやう、ですから奥さんなんでも困らないやうにお金をためなくつてはいけませんねえ」と答えましたもの丶、座敷の長火



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

鉢のなくなつたまでは、私には氣がつきませんでしたかやうのことを申されたので、初て氣がついて見ますと、なるほど如輪木のよく拭込まれた長火鉢がなくなつて、瀬戸の手あぶりにチコらんと南部の違ひ蓋の鐵瓶が不調和にかゝつてゐました。それからほどなくこの鐵瓶も一圓いくらかに賣飛してしまはれたやうでした。かういふ零落かたをするのはこの御主人公の考へなしの生活も無論關係してゐましやうが、多くは奥さんなるものゝ家庭のクリマワシが惡いからです、かうしたタイプの奥さんなるものはいたづらに權式ばかり高くつて、容易に客に對しても座布團一枚すゝめるではなし、お茶一杯機嫌よく汲んで饗應ことすらよくしないものです、それでゐて世間體を馬鹿々しく飾りたがるものでして、

「氣のきいた女中はないでしやうか、どこか御心あたりがありましたらお世話なすつてください、私の宅では別に女中と家のものと食物など別にしないのですから」

などともさも〳〵譯が分つてゐるといはんばかりの顔をして申されます、これはひとり奥樣ばかりでなく、主人公までがそういふことを自慢らしく申されますがかやうのことをお自慢なさるのは、失禮ながらまだ御自分の生活が水平線以下なのにお氣がつかれない方のお自慢にすぎないのですこういふ考へで女中を奴隷のように追使つてゐられますのは、あまりに無慈悲すぎます、ですから私などは若い御婦人がどこか女中に參りたいから御世話なすつてくださいとたのみに見えられましても、かうしたお家へは體格を惡くしますからおよしなさいと斷つてやらないやうにしてゐます一體女中と主人公の食物を區別するなどいふことは、封建時代の主人と雇人との主從關係の時代ならいざ知らず今日では上流社會の生活でもなくつて、さやうの區別をするのは無慈悲極ることです、主人のものも下女の食物も同じなのが當然です、こんなことを恥かしくもなくよく自慢氣に口にしてゐられる方は、自分達の生活をよく考へてごらんなさい、三十や五十の給料取の



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭では精々贅澤した處で、晩酌の肴に魚屋から取寄せた、二人前廿錢たらずのさしみ位のものぢやありませんか、それだつて毎晩といふわけには參らないでせやう、處が私の知つてゐる家などでは決して細君の手料理などの煮くらかへしを喰べません、ちやんと料理人があつてそれが庖丁をとつて晩酌の御馳走を作るのです、これは一食二圓も三圓もかゝりますのですから、主人公と女中の食物を一緒にするわけには出來ないので、女中には別にほかの肴をみつくろつてやるやうにしてゐます、かういふ人と同じに思つて自分の生活程度も考へず、女中の食べものは澤庵の切れ端でもよいやうに心得てゐられるのは、とんでもない、間違ひだといふことを私は申上げておきます。今日の中流社會の生活ほどみじめなものは恐らくないでしやう、その食物などに至つては殆ど牛馬に等しきものを以て濟してゐられます、よく私達に向つて下宿屋生活がどうのかうのと申されますが、下宿屋の食物にも劣つたものを食べてゐられるのが、女中の一人も使つてゐられます家庭で往々見かけられます。實際今日の中流社會ほどみじめな生活をしてゐられますものはないのですだから奥さんなるものはもうすこしくしつかりして虚榮心などにばかり捉はれずもう少し人間らしい生活の出來るやう家庭のクリマワシをしつかりやつて頂きたいものです。

その點に至ると裏店に住まつてゐても職人のお神さん風情の方が遙かに奢つた生活をしてゐます。第一家庭のクリマワシ方からして心掛けが違つてゐます、三人や五人の家族なら一人で切て廻はし、外交から臺所まで、一切引うけ、ひまがあればいくらでも内職に精を出し、亭主の晩酌の膳には必ず氣に入るような肴をみつくろうことを忘れるものは一人もありません、そればかりか銀行の通帳にはいつも三百や四百の貯金は記入されてゐるのです、然るに中流社會のくらし方に至つては世間體はいかにもよろしいが、月々いくらかづつの借金を殘し、一文の貯金も出來ず、もしひよつと一つ手違ひでも生ずると、すぐどん底に零落れなけ



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ればならないやうな不安な生活をして居り乍ら、それを少しも氣にかけず、呑氣に虛榮にばかり生きてゐられ、所謂寄生蟲の奧さま方の多いのは、まことに愁ふべき現象だと思つて、遂々このやうな憎まれ口を申上げたのですが、實際このことは奧樣方にもうすこし眼を覺ましていたゞきたいものです。（四月十三日稿）

# 春の感象

――目黑なる杜の陰にて――

坂本正雄

武藏野の春のはやしにたゝずみて白き花みる
夕まぐれかな

今日の雨につぼみほころび咲き出でしさくら
の花のいちらしきかも

醉へるごとき氣分にみちて此處にあり櫻の上
を鳥啼かず飛ぶ

われ一人たゞずめるをば知らぬ顏に人ふたり
行くあはれ樂しさう。

手をとりしをとこをみなを觀むとては吾れ此
の野邊に來ざりしものを

年ごとに林は伐られしば草は耕ちひろげられ
て野邊は死し行く

野の面、わづかにのこる松の木の二もと三本
たふとかりける

わが心しづめたまへと禱るとき林の底の地ひ
びきをきく

おほらかに春こそ來つれしばらくは吾れも醉
はなむ人も醉ふらむ

手をとりて散步をすべきひともなし吾が戀ふ
ものは林こそ知れ

いつまでも吾れは自然を友として永遠に『或
る物』めがけて進まむ

有るか無しの己が寳をわすれはて惣べてを神
に求めて進まむ

夕ぐれとなりぬ樫の葉青光りはた白光り鳥な
かず飛ぶ

白き花ほんのりとして浮き出でぬ美くしき花
大きなる花ゝゝゝ

心から、神に野原と此の吾れと深く結びつけ
たまへと祈る。

――四月四日詠む――



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 自然より人生へ

豊田曉湖

硝窓を透して流れて來る人の心をそゝる樣な鶯の聲に誘はるゝ儘に、ペンを捨てゝ杖を荒涼の田野にひいた。軟かい夕暮の春風は青葉の上を靜かに渡り、羅衣の流れの樣に吾を撫でて只管に多情多恨の胸を慰藉して吳れる平和な靜寂な田園の自然は淡い春の日影を浴びて凡べてが新綠の薫りに咽んでゐる、萬綠叢中ところどころに清楚な櫻花の色彩鮮かに微笑むも亦人をして感なからしめず。

長堤千里蜿蜒限りなく遠く長く。右方は綠蔭滴る芳草の褥展げられ、極まるところ利根の流れは銀の帶の如く、迂紆曲折して其盡くるところを知らず、水は滴る綠を乘せて渦卷きつゝ滾滾として流れ、大河の胸中また偉大なる力の潛在を思はしむるのである。其岸に沿ふて莽、蘆の藪は繁り、處々に雜木林は連なり、間々平坦の丘には、菫、蒲公英の花は世の罪知らぬ少女の姿の樣に優しく面羞恥しげに微笑んでゐる。有情の春風習々として吹き渡れば時ならぬ自然の音樂は奏でられ、感傷詩人の胸を躍らすのである。首をめぐらせば、遙に眺む筑波の高峯遠く紫に霞んで夢の如く、半ば白雲に遮られて其山容を隱す。

寂々寥々、平和なる田園の自然は全く吾を囚へて綠の搖籃の中に深き瞑想に沈ましめた、自分は此大自然の奥底より湧き出づる美妙なる靈感に打たれ、微弱纖細なる我思想は全く飮み盡されてしまつた、而して唯、恍惚として夢の如く偉大なる自然のインスピレーションの中に溶け込んで行つた。

空の色、環境の景色にのみ注がれてゐた吾の眼は、いつしかゆれゆれと立ち昇る人家の煙を見つめ乍ら、はしなくも自分の思想は自然より人生へ移つた。

動搖の影だになく、至醇至美なる自然、平和なる天地に育まれたる人の子は實に質朴な、從順な、誠に生れた其儘の人間の樣な感あらしむるのである。

生れた儘の樣な容姿をした人々よ!、兄等が日頃の黽勉怠りなき不斷の努力と、精勵とに對して厚き敬意と深き感謝の辭を捧ぐるに誰か躊躇するものがあらふ。且に曉を踏んで出で、夕に星を抱いて歸る、一瞬一刻泥濘に塗れて只管に粒々辛苦せられてゐる兄等の努力の影は、實に國民經濟の大部を占めてゐるのである。

田園の人よ、知るや知らずや、人間の偉大なる所以は、獨り自己內省の性あるが爲めではないか?、然り、兄等の力は偉大なり、然れども物を荷ふこと牛馬に及ばず、飛ぶこと鳥に及ばず、走ること犬に及ばず、唯夫れ吾人人類の偉大を誇る所以は自覺あるが故である。

自覺夫れ精神文明の根本基調である、唯、荷ひ、唯走り唯食はんが爲めに動き、唯引摺らるるがまゝに附て行くならば其生活は獸類のそれと撰ぶところはない。自覺なきところ永遠に土隷的生活より脫することは出來ない、憐れなる農奴的人格より遁れることは出來ない。

田園の生活は千年一日の如く、向上なく、進化なく、常に反覆的である、先祖讓りの土地を耕すのみが日常の仕事である、さればこそ思想は單調にして、物言ふこと考ふること凡べて、保守的で、消極的である。今や、十九世紀の物質文明は靜かなる黃昏の幕を垂れて、光輝燦然たる二十世紀の新らしき文明は曉の村里を破つて歸てゐるではないか、今日今時は隣の嫁の噂に時を送り、麥隴の間を透して流れて來る鎭守の森の大鼓の音や、眠むたひ樣な隣村の動よめき



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に耳を傾けるゐる時ではない。

吾人は間斷なく、流轉し行かなければならない。刹那より刹那に自然創造のある世界に活動せなければならない、其處に吾人々類の生活の意義があるのである、嗚呼、眼前に展開せられたる　大自然の偉力に驚嘆し、人類活動の偉大を感じ、瞑想しては、これ等人類の自覺の渇乏を仰ぎ、頷きつゝ相抱いてゐる人々の悲慘なる態を見、うたゝ感慨に堪えないのである。

田園の人よ、誠實と順朴との天賦の長所を抱ける生れた儘の人よ、兄等の沈默せる背後には灰色の、うるんだ、穢はしい氣が充ちてゐる。兄等は何故に拂ひ除けやうとはしないのか、勇氣が無いのであるか、それとも知らないのであるか、其濁れる空氣を一新せざる間は到底意義ある、價値ある人生の行路を辿ることは出來ない眞の人間として生きることは出來ない、眞成自治の政治は行はれない、意義ある生活は永遠に送ることは出來ない。

時の經つのも知らず、自分は綠の若草の上に橫はり、遠く遙かなる雲雀の鳴聲を聞き乍ら、音もなく流るゝ足下の小流を瞰詰めつゝ、つぎつぎに浮び來る種々な思想に耽る程に、いつしか日は全く森影に落ちて、暮色蒼然、夕暮の色が犇々と迫つて來た、一抹の靄が隣村の林に立つ、まもなく、横に延び、上に擴がり、森を隱し、村里を包んで、今し闇の黑幕が此世に切り落されんとする頃、多情多感の胸を抱いて歸途に着た

## 人の家見て

秋田縣仙北郡强首村九升田の救濟に從事して居る石川理紀之助翁は、村人をして其の家を整理せしむる一方法として、互に天氣のよい時には必らず村中の家々を巡視させて居るそうである。この巡視は一寸家の入口まで這入つて掃除の事や子供の仕付け振などを見るのが目的で、畢竟人の振り見て我が振り直せと云ふが如く、人の家見て我家を整頓せしむるためである云々（報德より）


六月分豫約賣

三銀好組合品

素人料理半會席

▲五品見立

箱入（地方荷造料卅錢）

豫約內金貳圓

（賣價八圓分）　（申込只今）

特價　金五圓

廿五個揃
一人附皿五人
向附丼五人
吸物茶碗五人
御膳茶碗五人
小皿五人

（箱入雛形）

組合は三銀におまかせ願升

舟遊 鐵道 旅行用茶道具

壹揃（金貳圓）

籠入
急字須
茶碗
茶入
茶巾

○鐵道、舟遊、山遊、お芝居等にお好のお茶があがれ升て御進物に一寸よろしく

自製陶器舖
新橋 三銀
電新一六三〇
振東二五〇七五

# 春の一日

玉露女

男「あゝ好い氣持ち、春曙の薄靄に夢の樣な空氣が寢ざめの肌をなでる………ア姉さんもつと寢ていらつしやい」。

女「エ、、でもそろ〳〵起きてお風呂へでも行きませう、まあ靜かな曙ねエ………さつぱりしますこと」。

男「さあ起きたと定つたら今日は………ア左樣だ金澤へ行きませう、ね? 此處から逗子迄汽車で逗子から自働車で二十分懸れば行ける」。

女「何處へでも」。

男「ぢや支度しませう、僕も風呂へ行く」。

＊　＊　＊

女「お待遠樣」。

＊　＊　＊

男「もういゝの?、ぢや御飯にしませう」。

＊　＊　＊

女「エ、。お早う御座います」。

男「お早う!、ヤアこりあ美味さうなものだ」。

女「珍らしいものね」。

男「皆食べてもいゝ?」。

女「何故?」。

男「姉さんも食べたいだろうと思つて」。

女「アラ……ホ、、、まあ何時の間にか私の分を食つてるのねエ、どうりで皆食べていゝかなんて仰有ると思つたら……何卒御遠慮なく澤山召し上つて頂戴、私もうおしまひ」。

男「僕も直ぐにしまふ、停車場迄歩きながら行きませうね」。

女「エ、、ぢやお會計を」。

＊　＊　＊

女「切符買つて來ますから此處に待つていらつしやい



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ね」。

男「ア一寸、いつもの通り一等にしないで今日は三等に乘るんですよ、心願の筋が有るから、一生に一度位三等汽車にも乘つて御覧なさい」。

女「ハイ、でもね私學校に居た時分修學旅行の時は三等に乘せられましたよ、逗子迄位平氣ですわ」。

男「僞ですよ、冗談ですよ一等で好いの」。

女「あら隨分……そんな事仰有るなら二等へ乘せてお友達にでも見付からせて上げればよかつた」。

男「と云ふ内に着きますよ、急ぎ候程に早やこれが相州逗子が驛にて候」。

女「自働車が何處に有るのでせう」。

男「巡査に聞きませう」。

* * * *

女「好いお天氣ね、山も野道も春の色が萌えて居ますね」。

男「此處を自働車で走つて行く　丁度活動寫眞の樣でせう?、深切な巡査のお蔭で自働車も直ぐ出來た。僕一人ならとてもこうは行かなかつたに違ひない、姉さんの餘德の然らしむる所だ、お二人ですね、つて云つてしまつたよ」。

女「またあんな事、貴君一流がはじまつた」。

男「此處、此處、ね一寸好いでせう?　山の裾をくるりと廻つて坂を行くのが……。歸りは猶面白い景色に見えるの。今通つて來た兩側の山が眼前に展開して突として移り變る光景が殆で活動寫眞でせう?」。

女「もう直き金澤でせう?」。

男「エ、、入口で降りてしまひませう、もう直ぐ彼處です、金龍山つて云ふんです」。

女「降りますの?」。

男「エ、」。

* * * *

男「ね?、此處から八景が一目に見降されるでせう小泉の夜雨、野島の夕照、洲崎の晴嵐、彼のね向ふに長く海に突出した松原の中に一軒屋が有りますね、いい家ですね、戀に狂つた姫君が幽閉して有るんです、



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

或る夜暗にまぎれて若者は其お姫様を盗み出すんですそれで無いと劇にならない。

女「嫌だ、私本當のお話だと思つて伺つてたら……富士は見へませんの？惜しい事ね、石段を登つて少し勞れました、此處で一寸休みませう」。

男「汚れてますよ掃つて上げやう、此所はもと人が居て繪葉書位賣つてたんですね」。

女「私がまた此山に住み込んで繪葉書でも賣りませうか、浮世離れがして嘸いゝでせう。今下のお寺にお僧さんが居ましたね、一寸羨ましいやうな氣がした」。

男「嫌だ。こんな所ぢや俗人が入り込んで浮世の風當りが煩い。二人で住むならもつと〳〵山奥で其上電燈瓦斯水道の便の備はつた所で夏涼しく冬暖かい溫泉が欲しい」。

女「そんな所は高野聖でゝも無けりや………。本當にねエ、人と云へば御飯を運んだり洗濯物を取りに來たり――それも一日二度で澤山、しかもお天氣がどうの御機嫌がどうのつて、口を利かないお爺さん一人限り位で、外に誰も來ない――山奥へでも、二間續きの草ぶき屋根の小家を立てゝ二人で隱れて、勉強したり寢たりする時別れて、遊ぶ時は一所に遊んで一月なり二月なり暮せたら、どんなに嬉しいでせう見付かつて叱られたら其瓦斯の口を出し放しにして息をつめて死んでしまへばいゝわ」。

男「一月は愚か一週間でもそんな思ひが出來たら見付から無いでも死んでいゝ」。

女「有り難う、もう歩きませう」。

男「エヽ此處を降りて千代本迄歩けますか」。

女「何處迄でも……。「竹きらぬ」つて札が出てますねあ此竹藪の竹を切つて呉れつて云ふ人が來て煩いからでせうね」。

男「あゝいゝ香り、荒果てた寺の後庭に淸淨な白梅の古木！ 梅かほる金龍山や竹きらぬ」。

女「まあ！ ホヽヽ」。

男「あれが千代本」。

女「屋根の色が四邊の景色と調和して美しいこと」。



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

男「草臥れやしない？」。
女「大丈夫、草臥れてもよござんす」。
男「こんな事聞いて歩くのは煩いの」。
女「まあ、ひどい」。
男「でも聞くと喜ぶだらうと思つて」。
女「勝手に遊ばせよ」。
男「やあゝの花は何だらう」。
女「梅の樣だけれど花が黄色ね」。
男「金澤で黄色い梅を見たりけり――いよ〱變だなあ、ハヽヽ」。
女「お婆さんが驚いて見てますわ、何か籠に入れて來たのね、手拭かぶつた姿も田舍道では繪になつてますわね」。
男「婆さんの負ふ籠重し頰かむり」。
女「また！」。
男「ア僕南金豆が欲しい、買つて來ますよ、待つていらつしやい」。
女「お止しなさいよ、本當に不良紳士で仕樣のない方ねエ、そんなもの買つて」。
男「姉さんにも上げませうか」。
女「まさか………。春ですわねエ、水の流れも春らしい」。
男「水ぬるむ春の野道やピーナット」。
女「もう知らない！」。
男「ハヽヽ寒か無い？」。
女「聞いて下さらなくてもよございます」。
男「今度は本當に氣になつたから………」。
女「ホヽヽ、何とでも仰有い」。

* * * *

男「あんなに運動しても矢張り御飯食べられないんですか」。
女「…………」。
男「四時迄に自動車が迎へに來て貰へば間に合ひますね、四時三十五分の汽車で歸りませう、ね？　其位がいゝでせう遲くなると惡いから」。
女「…………」。


Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

男「何考へていらつしやるの？」。
女「柳樣………!!」。
男「……そりあ……僕だつて……」。
女「………あゝ………」。
男「姉さん………!!」。
女「世の中が恨めしい!!………」。
男「何も彼も、運命だ!!………」。
女「…………」。
男「さ。歸るまでには未だ時間が有る。氣を取なほして一つ本でも讀みませう!。る殘みの響の裾の衣く牽く長のア弁ニギ……あゝ倒さには讀みにくい……ギニ弁アの長く牽く衣の裾の響のみ殘る。つてんですよ。
男「君見よと宵に贈れる花輪のいつ摧けたる名殘か暫く吾が足に纏はる絹の音にさへ心置ける人の。何の思案か立ち直りて織き手の動くと見れば深き幕の波を描いて眩ゆき光矢の如く向側なる室の中よりギニ弁アの頭に戴ける冠を照らす。輝けるは眉間に中る金剛石ぞ。

「ランスロット」と幕押し分けたる儘にて云ふ、天を憚り地を憚かる中に身も世も入らぬ迄力の籠りたる聲である。戀に敵なければ我が戴ける冠を畏れず、「ギニ弁アー」と應へたるは室の中なる人の聲とも思はれぬ程優しい。…………さあ今度あなたが讀むの。此所から」。
女讀む「〔うれしきものに罪を思へば罪長かれと祈る憂き身ぞ、君一人館に殘る今日を忍びて今日のみの縁とならばうからまし、と女は安からぬ心の程を口元に見せて珊瑚の唇をぴり〳〵と動かす、今日のみの縁とは墓に堰かるゝあの世迄も渝らじ。と男は黒き瞳を返して女の顔を眤と見る。
左ればこそ、と女は右手を高く擧げて廣げたる掌を竪にランスロットに向ける、手頸を纏ふ黄金の腕輪がきらりと輝く時ランスロットの瞳は吾知らず動いた左ればこそ、と女は繰返す、薔薇の香に醉へる病を病と許せるは我等二人のみ。このカメロットに集まる騎士は五本の指を五十度繰り返すとも數へ難きに一人として北に行かぬランスロットの病を疑はぬは無し。束の間に危きを貪りて長き逢ふ瀬の淵と變


Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

らば……と云ひながら擧げたる手をはたと落す。かの腕輪は再びきらめきて玉と玉と撃てる音が戞然と瞬時の響を起す」。

む男「命は長き賜物ぞ戀は命よりも長き賜物ぞ心安かれ、と男は流石大膽である。

女は兩手を延して戴ける冠を左右より抑へて此冠に我額の燒ける事は、と云ふ願ふ事の叶はゞ此黄金此珠玉の飾りを脱いで戀の下に投げ付けて見ばやといへる樣である。

白き腕のすらりと絹をすべりて抑へたる冠の光の下には渦を巻く髪の毛の珠の輪には抑へ難くて頬のあたりに靡きつゝ洩れかゝる肩に集まる薄紅の衣の袖は胸を過ぎてより豐かなる襞を描がいて裾は强けれども剛からざる線を三筋程床の上迄引く、ランスロットは只窈窕として眺めて居る。前後を截断して過去未來を失念したる間に只ギニヰアの形のみありありと見える。機微の邃きを照らす鏡は女の有てる凡てのうちにて尤も明らかなるものと云ふ。苦しきに堪へかねて我と吾頭を抑へたるギニヰアを打ち守る人の心は飛ぶ鳥の影の疾きが如くに女の胸にひらめき渡る、苦しみは拂ひ落す蜘蛛の巣と消えて剩すは嬉しき人の情ばかりである。かくてあらばと、女は危き間に際どく擦り込む石火の樂みを長へに續けかしと念じて兩頬に笑を湍らす、かくてあらむと男は始めより思ひ極めた態である、されど、少時して女は又口を開くかくてあらん爲め北の方なる試合に行き給へけさ立てる人々の蹄の痕を追ひ懸けて病癒えぬと申給へ此頃の蔭口二人をつゝむ疑の雲を晴し給え。

左程に人が怖くて戀がなるか、と男は亂るゝ髪を廣き額に拂つてわざと乍らから〳〵と笑ふ）――もう止しませう」。

女「心易きを自から捨てゝ捨てたる後の苦しみを嬉しと見しも君が爲なり、うつせみの世を、うつゝに住めば、住みうからまし。昔も今も、美しき戀。うつす鏡に、色やうつろふ、朝な夕なに」。

男「罪は吾を追ひ吾は罪を追ふ、か！」。

* * * *

男「さあいよ〳〵お別れです。然し樂しかつた」。

女「本當に、どうも有り難う御座いました」。

男「左樣なら!!」。

女「左樣なら!!」。

――（終）――



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 妊娠中の衛生に就て

女醫　多川澄子

元來妊娠は生理的のものでありますから疾病の場合と異り特殊の養生法等といふものは要らぬ譯でありますが、然し生理的とは云へ平常の場合から見れば、子宮は素より全身の新陳代謝機能が亢まりますから、自然身體諸器官に異常を起し易くなり、僅な事から病的に變ずる事が少なくないのであります。

夫れ故坊間に種々な書物が現はれて妊婦の衛生を説いてありますが、是も一利一害で却て無責任な説に左右されて往々誤つた攝生をしてゐる人も尠からぬのは產婆も醫師も困ると申して居ります。

又一方、因襲に囚はれた老人達が申される事も、或點は尊い經驗に基いて來たもの故、聞く可きもの、採る可き點も多々ありますが、又吾々多少科學的知識を味つた者がとても從はれない樣な事もあります。

例之高い處へ手を上げるな、昔御殿女中は妊娠すると豆を拾はせたといふ樣な事、高い處へ手を擧げると時に腹筋の不自然な收縮を起して胎兒の位置異常を起したり、ひどい時には流產する恐れがありますし、之に反してうつむいてする仕事は苦しい故自然加減してするから却て間違ひ少なく、且分娩時の腹壓の練習になるから豆拾ひ等は理屈に叶つた運動であります。

然し又、腹帶をするのに保溫と胎兒位置の安定とを助けずに上腹部丈を緊縛したり、妊娠中あまり入浴すると胎兒が成長し過ぎて產が重い等といふのは大いに間違つた考であります。

では大體何ういふ方針でゐたら宜しいかといふのに之は其人々の境遇、性質に從ひ、却て習慣を更へず、且自然に逆はぬといふ方針をとるべきだと思ひます。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

そして一朝何か異常の起つた場合には、醫師產婆に相談すればもとよりよいのですが、又自ら其原因を探りて除く事が肝要であります。

例之食慾不振、便秘等は往々運動不足から來ますから適度な運動を執り、殊に便秘は新鮮な果物や野菜を食して之を防ぐ事が必要であります。又飲料を多くとるといふ事も便通をよくする方法であります。

姙婦は出來る丈毎日一回入浴をするのがいゝ樣です之は第一運動になり血行をよくしますし、第二身體の清潔の上に缺ぐ可らざるものであります。第三には精神的にも有益だと思はれます。卽姙婦はとかく陰欝になり易い、そんな時に入浴毎に靜な朝風呂等に浴すると、如何にも氣が伸んびりして心機一轉するものです。

それから姙婦は殊に姙婦末期にはあまり飽食してはいけない、寧ろ平常より控へ目に度數を多くして召上る方がよい樣です。不消化なもの、油こい物（例之貝類、海老類、干物類、獸肉類、天ぷら等）は成可く避け、輕い魚、野菜等をいろ〳〵變へて喰べるのが宜しいが、好きなものは割合さはらぬもの故、好物で消化の宜しからぬものならば幾分か控目にたべれば差支ない樣です。牛乳、鷄卵は滋養になるといふてきらひなものを強いて食する必要はない。之に代はる滋養品で好きな物の方が遙かに宜しい。例之甘酒が好きなら牛乳の代りに甘酒を飲んでも宜しい。實際甘酒はヂアスターゼを多く含み、日本人に適したよい飲物です。口渇ある場合之を防ぎ、又乳汁の分泌を增す働きがある樣です。

然し牛乳が好きか、或大して嫌でなかつたならば、姙娠中牛乳を飲んで置くといろ〳〵よい事があります。

夫れは牛乳には諸養素が適當な割合に、然も消化され易い狀態に含まれて居りますし、便通をよくし利尿の効があります。大抵朝夕一合宛牛乳をのむ事に依てよい具合に便通が整ひます。尙ほそれできかぬ樣な時冷い牛乳は通じをよくつけるやうです。

又口內が乾燥して口渇ある時、水や茶の代りに牛乳を少量宛のむといふ事は二重の利益があります。

今一つ牛乳を飲んで置くと便利な事は、分娩後、其



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

小兒が牛乳によく堪へるといふ事です。之は實地に經驗の多い產婆に聞く事ですが、姙娠中から母が牛乳を飮んで置くと、一朝母乳を止めて牛乳で育てねばならぬ場合に、乳を吐くとか、下痢するとか、つまり牛乳が性に合はぬといふ事が少ないと云ひます。丁度醫學上免疫說に一致してゐて興味ある事實です。母親が多忙な人、外出する事の多い人等は夫れ故姙娠中に牛乳をのんで置く必要があると云はねばなりません。

# 生花について（三）

尾崎恒子

五月——人の心を浮立たせた櫻は早くも散り、新綠の五月は來ました。で五月は紫や白などの品の良い、落付きのある花が咲くのでございます。まづ藤（紫及び白）樓斗花（白及び淡紫色）燕子花（紫）溲疏花（純白）牡丹等は重もなるもので、生花の方でも、最も風情のある月としてあるのでございます。

大きな水盤にたつぷりと白藤の花の二房か三房の蔓をあしらつて、その下に燕子花一株位をあしらうなぞは、初夏の池邊の氣分を見せて、なか〱良いものでございます。

又溲疏花、これもやはり水盤にたつぷり生け、少しく露をうたせておきますと、彼の淺綠色の若葉にうつる純白の花の風情はえも云はれぬ趣きのあるもので相模のよんだ「見わたせば浪のしがらみかけてけり卯の花さける玉川の里」の歌の心も忍ばれて、餘情のあるものでございます。

牡丹はさすが花の王と云われてゐる丈あつて、花にも葉にも又色にも他に見られぬ氣品があり、床しい香をもつて居りますので、投入に致しましても、書院花に生けましても、高貴な色ある良い花でございます。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

莟或は半開のところ一二輪を古木にあしらつて、少し大きな籠などに挿しますと、奥床しく座敷を飾るものですが、此花は澤山さしては、却て花の風情を失ひ、面白味のないものですから、まア一瓶に一輪か二輪、せいぐ〳〵で三輪位にしておく方がよろしうございます。

處で此の牡丹、及び藤、溲疏花、等の水揚は根の方一寸ばかりを火に燒き、倒に手にもつて水を柄杓に二三杯かけ、そして澤山の水の中へ一時間ばかりも素直にさしておきますと良く水を揚げます。なほ根を燒く時には花や葉に火氣を受けぬやうに、なるべく手拭か何かにて花や葉の方をすつぼり包んでおく方がよろしうございます。

それから牡丹は非常に鐵氣をきらうものでございますから鐵製の花器に生けては良けません、鋏で切つた切り口にも一寸アルコールを塗つて鐵氣を消しておく方が安全でございます。

藤は非常にお酒の好きなもので、それ故にふら〳〵してゐるといふ譯でもありますまいが、酒氣さへあれば元氣の良いものでございますから花瓶の水に二割位清酒を混入しておく方がよろしふございます。

燕子花は水揚は要しませんが、すべて沼池に咲く花は鹽氣のある水をきらいますから、なるべく水道の水に挿す方がよろしふございます、そして早く花を開かせやうと致します時は、冠葉と云つて花の頭のところにスーッと出てゐる尖つた一枚の葉を切り落しておきますと、普通より一日位は早く開きます。

耬斗花、罌麥、矢車草其の他五月の花は、總じて精の強いものですから大抵は水揚をいたしませんでも良く保ちますが萬一あげません時は切り口にアルコール又はハッカ液を一寸つけて挿しますと良くあげます。

それから花を挿すに就て注意せねばなりませんのは花の取合せと配置とでございます。何でも同色のもの二種以上を一つの花器へさしてはいけません、又高山植物を棚下の低いところへ挿したり燕子花、萍蓬草のやうな沼池に咲く花を籠にさして高い棚の上にのせたりなどはなさらない方がよろしふございます。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 編輯餘錄

文子

■今年の春位短かい様に感じた事はない、何時までも雲が降つて居て、寒かつたのが、二三日ぽか〱して花が咲いたかと思ふと、又雨で急に散りかゝる。今か〱と待つ間もなかつたが盛を眺めたのも一日か二日であつた、其の代り落花の趣は深く味ひ得た、夜上野の山を散歩して土も見えぬまでに散りしいた上をそぞろ歩く其の上に尚散りかゝる風情つたらない。「花は盛りをのみ賞づるものかは」とは昔の人の感想だと思つてゐたが、私もだん〱年をとつたものと見えて落花の趣味を解する様になつた。

■朝子さんと講演會の準備に奔走するとて、雨の日だと思つて、高下駄雨傘で出かけると、お天氣になり、行者さんアンマさんよろしくテクツクのが二日、お天氣だと思つて、低い下駄で出かけた日に降り出してピシャ〱になつた日も一日か二日あつた。皆様の御厚意で大變都合よく運んで別紙廣告欄で豫告した通りの諸先生に御願して五月十五日午後〇時半から午後五時まで青年會館で講演會を開く事になりました久しぶりではあり、同人諸姉の皆樣も大變勢込んで居て下さるから、屹度盛會だらうと、今から豫想して樂しんでゐます、愛讀者の方々も一人でも多くお誘ひ合せてお來會下さいませ。

■佐治實然様より　四月の婦人職業號は老生も平素心に掛け居る問題ゆへ前後注意して拜見仕り皆皆そう出來るものではないけれど女醫、看護婦、交換手若くば店員の順序と被存候女醫ばかり殖えても變なものであるし交換手もよいけれども品性陶冶の上から觀て如何と案候

女子には姙身と申すことと炊事と申すことゝ子を育てることゝあればソレに邪魔にならぬ職業にて平均一ヶ月十五圓位の收入あることを教へて頂きたく存候恐くソレがなからうと被存候も如何炊事と育兒に關係なき上流の女子は職業の必要なく職業にて收入を得べき中流以下の女子には炊事と育兒は避く可らざる仕事なりハテサテ面倒と被存候

■T様より　前略私は新眞婦人愛讀者之一人に御座います只今も御伺ひいたしまして日頃御教訓下さいます先生方が何となく御なつかしく喬師の君の様な感じがいたされます毎月一日御發行とは知りながら實にまち遠しく月末にはきつと東京堂へ求めに參ります先月も月末から一日二日とまゐりましたが未だ出て居りません其の度泣きたい様な氣がしてやつと三日の夕方雨のひどく降る中を求めなくては氣がすみませず手に入れた時の嬉しさ夢中でありました何時も一晩で讀んでしまゐます床につきましてもあれやこれやと感想が胸にうかびます。

いつも〱先生方の御説はしみじみと身にしみますそして私の身に比較して居りますよく〱先生方の御主旨を守り實行する考でありますす何日も手を拍つて先生方の御説を聞きまして一人よろこんで居ります毎月再三度も御發行下さるものならば善いと考へられます只今では他の婦人雜誌は分り切つたつまらない説の様な氣がせられます只毎日毎日行く末を樂んで友とするのは新眞婦人であります一昨年五月頃求めに行きまして發賣して居なかつた店が此の月には早や發賣して居ましたのはたしか御社の御發展とひそかによろこんで居りましたこれまで何日か先生に御話しいたしたならばと思つて居りましたが未だ御目もじもせず申しあぐるは何よりも失禮と存せられます故後日お願ひに及びます何とぞ何とぞよろしく御願ひ申します先生どうか至らぬ者では御座いますが愛讀者と御ぼしめして御記憶のほど御願ひ申上ます。　後略



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

## 新刊紹介

▲**硝子戸の中**（夏目漱石氏著）今年一月より二月にかけて先生が朝日新聞にかゝれた感想文である、いづれも面白く拜讀させられたが、殊に煩悶ある婦人の相談に來たのに親切に應答されるのを奇異に感じた、先生の如き天才派の面倒がりらしく思はれる方が、うるさく〳〵頼んで來る地方人になやまされながらも思ひやつて短册をかいてやられるのも面白い、兎に角こんな日常事をさへ非常の興味を以て讀み終らせられるのは先生の筆に限る。諧謔を非常に嫌はれる處も、博士號を辭されたのと同筆法に見られる、皮肉でひがんだ觀察が到る所にうかゞはれるが、幼少な頃あちこち貰はれたりあづけられたりした事もあり、今は胃病であると聞いては成ほどと首肯される。裝幀も先生の意匠になり、澁くこつたものである。（定價六拾錢神田區南神保町十六岩波書店發行）

▲**林檎の落つる音**（渡邊白靈氏著）これも朝日に掲載されたもので、科學を文學的に素人にも解し易く說いたものである、天才と云へば藝術家でなければならぬ樣に思ふて居た私は科學の發明にも大天才大空想の力を借られればならぬと云ふことを知つた、（定價七十五錢麴町區一番町三十三大成堂）

▲**現代女子の職業と其活要**（鴨田悦子氏著）三十種あまりの女子の職業を委しく紹介してある（定價五十錢本鄉丸山福山町四日本藥學協會）

▲**惡癖矯正法**（鴨田脩治氏著）十人十種百人百癖と云ふがこれは又百二三十種の惡癖を說明して矯正する法がかいてある、實行すれば何れも効果はあるであらう、然しこれを讀んだ丈で癖の治るものならば世話はやけないが、實益と云ふより興味として面白い（正價五十錢日本藥學協會）

| 新眞婦人定價表（毎月一回一日發行） | |
| --- | --- |
| 一冊（郵稅共） | 拾壹錢 |
| 半年分（郵稅共前金） | 六拾錢 |
| 一年分（郵稅共前金） | 壹圓拾錢 |

御注意
●註文は總て前金の事前金盡くれば必ず「盡」の一字を朱にて帶封に認む直に送金なき時は發送を停止す●郵券代用は壹錢又は五厘切手にて一割增

◎新眞婦人廣告料　特別面三十圓、一等廿五圓、二等二十圓、普通面十五圓、木版を要するものは別に實費を申受くべし

大正四年四月廿八日印刷納本
大正四年五月一日發行

本鄉區駒込林町二〇六番地
發行兼編輯人及印刷人　西川文子

本所區番場町四番地
印刷所　山版印刷株式會社分工場

東京市本鄉區駒込林町二百六番地
新眞婦人社
郵便振替貯金口座東京二四五五六



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 田舍より田舍へ

北海の新天地に引づられて來た、私は一面には自由な呑氣な氣分に生きて行かれますが、一面から考へるとまるで別社會に幽閉されて居る樣です、その間に絶えず新らしい思想、珍らしい知識を注入し、私を新らしく生かして下さるのは御誌新眞婦人です、頁のあまり多くない、けれども眞珠の樣に、ダイヤの樣に、輝いて居る記事は隅から隅まで讀み盡し、ありとあらゆる廣告文まで一字殘さず讀みますがそれ等からも多大の益を與へられるのが常です。殊に私は此方に來てから、山を負ひ海に面した當地の濱風、山下しの荒い〳〵風に切角の肌をがさ〳〵にして臺なしにして了ひました。友が無い、淋しい、寂寥、など云ふ事はもの〻數でもありません、まだうら若い婦人に取つてこれ位心細い事が又とありましやうか、顏は次第〳〵に赤らがほに田舍染みて來る、手の甲も指も節くれだつて、荒々しくなる、これが若い女の生命を縮めないで何としましやう、私も此別天地に埋もれて終生終るものではありません、いつかは又都の空に舞戻られねばならないのですもの、其の日其の時どんなに耻かしい思をしてもおつつきません、今から心がけて肌の色艶丈けは荒さなくしたいものだと、さま〴〵の化粧品を町から取り寄せて見ました、どうでしやうまだ此地に來て居るものは、今は都には其の名も止めない一昔も二昔も以前のもので、肌にしみてひり〳〵と、却つて後が荒らされたり、ふき出ものが出たりするのです、これではならぬと思つてゐると、貴誌の愛讀者からも御紹介があり、御地この頃の新聞諸雜誌に盛に廣告されてあります、「ホーカー」は流石に手廣く賣廣められた丈けに、こんな邊鄙な處へさへ來て居りました、「ホーカー」を正月手に入れて以來一日もかゝさず愛用して居りますと、どうでしやう、以前荒んだ强ばつた肌にお白粉した時の滑稽つたらありません、丁度、羊の子をだました虎や狼がうどん粉をつけて來た樣でしたが、今度は眞の羊や白兎の樣に軟らかい白い羽二重の樣な肌合になりました。こんなうれしい事はありません、本當に「ホーカー」はスベ〳〵と磨きをかけた艶出しの樣に、きめを細かになめらかに、生きた色艶を出すのには妙です、北海に限らず、都を遠くかけ離れた、小笠原、琉球、滿韓、臺灣、樺太千島と熱い寒ひ別天地にお住みになる諸姉も多くある事でしやうさうした不便な土地にも「ホーカー」は參つて居りましやう、直接本店から送つて貰つても是非日常御愛用になり、若い御婦人に一番大切なお肌をつちかふ事をお忘れにならぬ樣に切に御すゝめ申上ます。

本店は日本橋馬喰町四堀越二八堂です

# 簡易 美顔術箱

特價金參圓五拾錢　送料金拾入錢

五種携帶用美術箱入

内容
- マツサージ、ルーラー 一具
- カツピング、カツプ 一具
- フエシアル、ブラシユ 一具
- マツサージ用クリーム 一瓶
- ハイジエニツク、クリーム 一瓶
- 使用說明書 一部

美顔術が美容と健康に偉大の効果あるは今更申上ずとも既に一般の事實です、唯口惜いのは遠隔の地に御住ひの爲に思ふ儘この幸福を都人と同樣お受け遊す事の出來ぬ一事です、今回右の事情に鑑み何人にても簡易に東京にてお試みになると同じ効果ある美顔術箱を御分ち致します

**効力**　にきび、そばかす、吹出物は勿論お顔のしわをのばし常に生々たる自然の色艶を出す

○說明書二錢切手封入あれ

# 深き自信を以てお進め致します

お若い方に殊に御婦人にニキビ、吹出物の出來ました位醜いものは御座いません、其に付て私共でも商賣柄の責任上常に非常に苦心をいたし良藥もがなと存じて居ました所今回幸にも其目的を達し、偉大なる効力ある逸品を得まして皆樣に御報告いたす事を心から喜んで居ります

**特長と効力**

本品は普通藥品と其類を異にし、未だ日本に無い化粧用のクリーム體になつて居りまして、ニキビ、ソバカスを全治するは勿論、ナマヅ、タムシ、ハタケ、赤鼻等にも驚く可き効驗を有して居ます、其上冬分あれ止用として二重の効果があります

## ニキビ取用 理容クリーム

(アルミニユーム容器入) 一罐 金五十錢 送料入錢
特製 金壹圓 送料共

東京新橋竹川町十二、美顔術婦人御化粧所 理容館

電話新橋一五一九
振替東京一四一〇〇

腦病精神病專門

東京巣鴨町四丁目巣鴨電車終點先二丁

# 巣鴨腦病院

（長電話番町三〇九八）

院長 醫學博士 石川貞吉

入院隨意



# ●らい病

患者と血統者に急告す

秘密療法及豫防新書を送費二錢送れば無代送呈す一日遲れば千日の悔あり今直に申込め秘送は小包料八錢要

東京下谷車坂町五二 福田秋水



# 腦神經精神病

東京赤坂 帝國腦病院改

青山腦病院

院長ドクトルメヂチーネ 齋藤紀一

醫學士三名

田澤醫學士

特長 電芝二七四五 電芝二六六五 電芝三六七四



皮膚病一切 たむしの妙藥

# タムシン

東京市京橋區入舟町四丁目

本舖 橋本進世堂



腦病精神病專門

東京田端 電話下谷二二〇二番

# 東京腦病院

院長 後藤省吾

醫學士 黑澤良臣



Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 花柳病豫防液

# ゼニール

專賣特許

**旅行家は必ず本劑の携帶を忘れ給ふな**

「ゼニール」は花柳病の感染を豫防する未曾有の特効を有し之を裝置する安全注入器は携帶至便小形堅牢なる特許品にして秘密使用に恰適す、花柳病の恐るべき害毒を知る諸士の忘る可らざるは此「ゼニール」本店は勿論何處の取次店も大に歡迎す決してきまりわるがり又は僅の金をおしみ給ふな、特に夫に病毒ある妻君は是非此藥を用ひられよ、説明書あり申込あれ

**御婦人は藥液ばかりでも間に合ひます**

| 定價 | |
| --- | --- |
| 特製（器械藥液） | 一組 二圓 |
| 甲種（器械藥液） | 一組壹圓五十錢 |
| 乙種（器械藥液） | 一組 七拾五錢 |
| 藥液ゼニールのみ | 一瓶 廿五錢 |
| 送料 | 各八錢 |

發賣元 精錡水本舗 岸田吟香

東京銀座貳丁目

振替東京四七八七番

電 京六一五番

登録商標

# 岸田目藥 精錡水

彼ノ有名ナル米國大博士ヘボン先生直傳ニ係ル眼病一切ノ靈藥ニシテ現代我ガ國ニ於ケル目藥中ノ「オーソリティー」ナリ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新しき家庭には常に新鮮なる食物を要す風味會は斬新なる方法を以て常に新しき食物を御家庭に供給致候

顧問 松原新之助君 三宅秀君

## 風味會

麻布區材木町七番地
電話芝三一四九番

委細御電話又ははがきにて御問合を乞ふ

家傳靈藥

## ぢの藥

自宅ニテ安全ニ治ル

●イボ痔●痔痒●裂痔●痔出血●脱肛痔●痔瘻●不灼不切現狀の儘で治療奏効頗る顯著の家傳靈妙藥あり「ハガキ」にて申込有ば病原理由自宅自療法の説明書呈す

●東京市京橋際疊町壹番地

製藥本舗 小松盛林堂
電話京橋二九七

産婆看護婦派出
生徒養成

東京市芝區三田四國町二番地五號

## 東京衛生團産婆看護婦部

電話芝八百六十四番

部長 産婆看護婦 山下まつ子

府下荏原郡大崎町大字桐ヶ谷三百五十九番地

産婆部 大崎支局

東京市麹町區有樂町一丁目三番地

## ラヂウム専門療院

電話新參〇壹六番

院長 ドクトル従五位 渡邊鼎

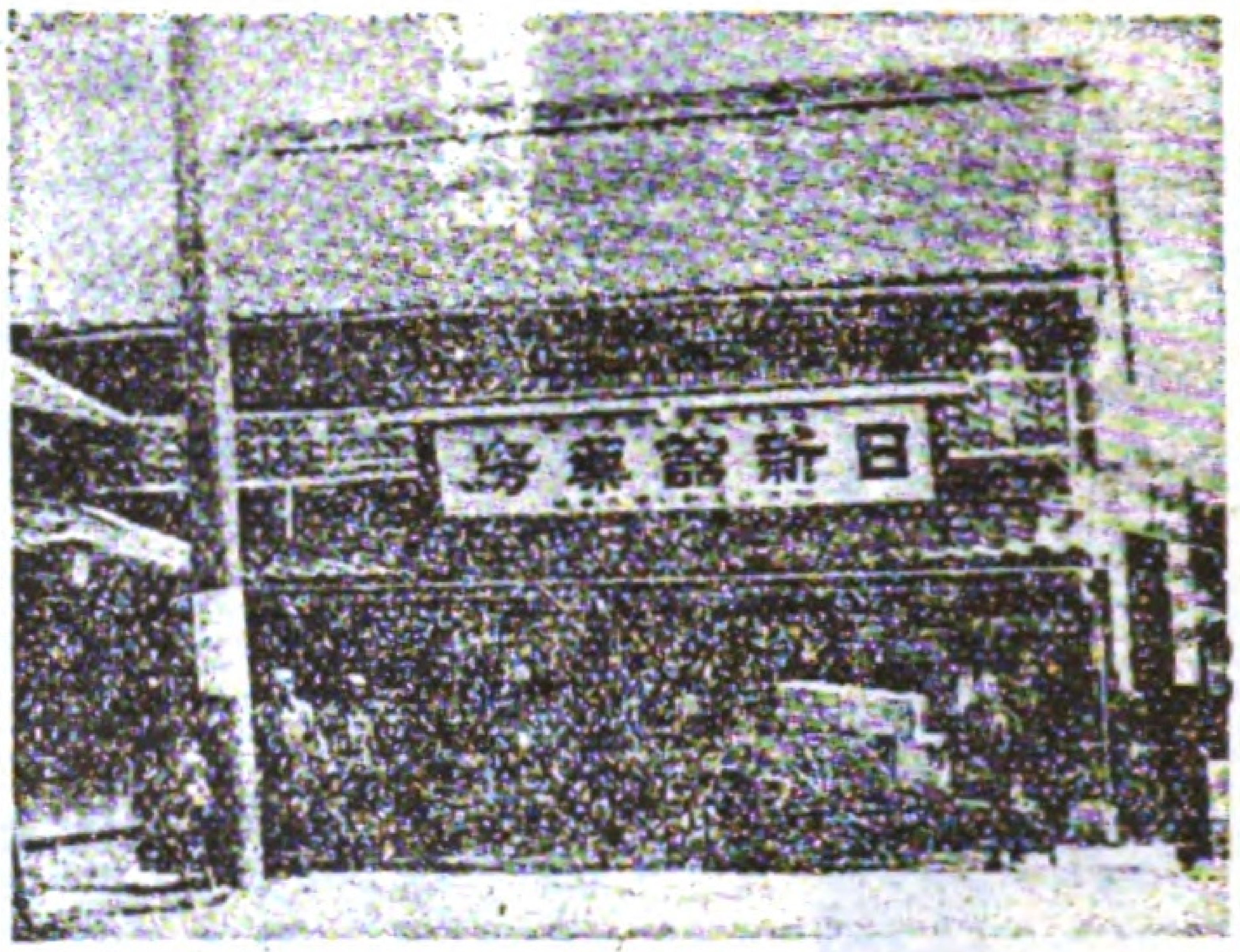
Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

陳者當館要用賣藥を發賣し、より既に三十餘年今や全國顧客を網羅せり顧れば當館は其昔より大廣告を以て人心を收攬せんとするが如き策は採らざりき。人の弱點に衝き入りて名利を得んとする一派あり世之を呼んで人氣取となす豈に單に廣告社會のみに限らんや然し所謂人氣なる者は瓦斯に掛けたる湯の如く急に冷えて頼みがひなきぞ是非ものなし故に其行を陋とするは勿論覆轍に鑑むも可や切也當館此心を以て江湖の諸君に見えんとし今般下に列記の賣藥を高覽に供せり何なりと御入用の物あらば陸續御注文あらん事を乞ふ尚ほ御不審の點は遠慮なく御照會せらるべし

東京神田五軒町十九番地

本舖日新館藥房

電話下谷局五四六番
振替東京壹九貳四六番




| 藥名 | 効能摘要 | 定價 |
|---|---|---|
| 一、色白新劑 | ありふれたる化粧水にあらず强烈なる色白劑を配合せる化學的新劑也又優雅高尚なる芳香幽に薫蒸す | 並製 壹圓貳拾錢<br>特別製 貳圓貳拾錢 |
| 二、理學證明 毛生新藥 | 禿頭病やけどのあと等凡て毛のあるべき處になき人用ふれば遂に蒼々と發毛す無毛患者迷はず試みよ | 小瓶 壹圓貳拾錢 中瓶 貳圓貳拾錢<br>大瓶 五圓參拾錢 特製 拾圓參拾錢 |
| 三、腋臭必治劑 | 傳染と遺傳とを問はず如何程の難症わきがにても病源を絶對に變質せしめて再發等の憂毫もなし | 小劑 壹圓八拾錢 輕症用 貳圓八拾錢<br>重症用 五圓八拾錢<br>慢性症用 特別製分 拾圓八拾錢 |
| 四、月やくおろし 通經劑 | 無害で苦なく下る但し血塊症には特製を用ひよ又用心に服せば月經閉止せず▲子宮病血の道をも治す | 壹劑 九拾錢 貳劑 壹圓六拾錢<br>參劑 貳圓貳拾錢 特別製 貳圓九拾錢<br>頑固症用 特別製分 五圓參拾錢 |
| 五、美容やせる藥 | むく〳〵と肥えたる人。のぼせ症卒中症等の人々之を用れば適度にやせ永世美容健康を保つことを得 | 壹劑 參圓貳拾錢<br>貳劑 六圓拾錢<br>特別製 九圓拾錢 |
| 六、補血增進 ふとる藥 | 貧血症の人肺病肋膜其他病後の恢復又老後の衰勞等に用ふるを適當とす | 壹劑 參圓拾錢<br>貳劑 六圓拾錢<br>特別製 九圓拾錢 |
| 七、淋病新藥 淋滅 | 淋病消渇の病源たるゴノコッケンを滅殺すべき新藥を主劑として配合したる斯病唯一の特效藥なり | 壹劑 壹圓拾錢<br>貳劑 貳圓拾錢<br>特別製 四圓拾錢 |
| 八、梅毒新藥 ドクトル | 一身は更なり子々孫々に傳はり一門病毒に苦しむ厭ふべき難症梅毒も悉く病毒を下し後に遺るをなし | 壹劑 壹圓拾錢 貳劑 壹圓九拾錢<br>參劑 貳圓六拾錢 特別製 五圓拾錢 |
| 九、生殖器病新藥 トニチン | 種々の原因より來れる神經衰弱陰萎病生殖器障害諸症不姙症發育不全等の良藥として普く稱贊せらる | 試用劑 貳圓 輕症用五劑 九圓五拾錢<br>重症用八劑 拾四圓五拾錢<br>慢性症用拾參劑 貳拾參圓 |
| 十、癩病新藥 レプロイス | らい病も一種の黴菌が作用すとの斷定を基礎として創製したる斯藥中最も進歩せる特效藥なり | 壹劑 五圓拾錢(三十日分)<br>特別製 拾圓拾錢(七十日分) |
| 十一、あざとり藥 | あざ。入墨。ほくろ。そばかす。なまづ。いぼを無害で綺麗に除去する特效藥なり | 試用劑 壹圓拾錢 小劑 參圓拾錢<br>大劑 五圓拾錢 特別製 拾圓拾錢 |
| 十二、眞正色白 ペーアス石鹼 | 多量の色白劑を含めるを以て直に漂白作用を營み皮膚を軟密艶美ならしむる最新發見の英國輸入品也 | 壹個 八拾五錢<br>參個 貳圓參拾錢 |


Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 美容法研究會新製特賣品

## △美容洗粉　（一箱　拾五錢）

熊本特産白小豆製洗粉は古くより婦人間に其効力の偉大なる事を認められて居りました、美容法研究會にては高貴なる香料を混じて更に是を精製し博く發賣致します

## △美容香油　（一瓶　參拾錢）

美容香油は最善なる椿油に香料を混じたる香油中の逸品でありります、椿油が不乾性を帶びて毛髪を養ふ上に於て此上なき品である事は皆様既に〱御存知の筈、一流の他の香油に比し此の如く低廉なる價格を以つて高需に應じ得る事を非常に喜ばしく感じて居ります

## △萬能キハツ　（一瓶　拾八錢）

萬能キハツは衣類の襟垢、油ジミ、白粉ジミ等を生地を少しも傷めずして美しく取り去る事は舶來の石油ベンヂン以上の力をもつて居ります、家庭日用必須品として又は氣のきいた御進物用として江湖の御愛用を切に希望致します

## 婦人販賣員

婦人職業問題の聲大層八釜しくなつて來た今日資本をかけず堅實なる自己の努力によつて相當收入の道を講せんとせらるる方は新異婦人社代理部へ御申込あれ

東京市芝區公園地十五號十一
代理部事務取扱
主任　小口みち

# 戸板裁縫學校

▲校長　戸板せき子

▲沿革　本校は明治三十五年二月の創立にして、爾來十有四年、其間卒業生を出すこと實に二千四百有餘人なり……明治四十五年三月規則を改正し、大正二年二月更らに學級を增設して夜學を開始し、更らに規模を擴張して教員養成所を設く、而して同年五月二十六日文部大臣の認定を受くるに至れり、其年八月二日組織を改めて財團法人とす

▲修業年限其他　豫科修業期限は三ヶ月以上一ヶ年以下とし其力に應じて之を定む本科修業期限は七ヶ月とし之れを前期三ヶ月後期四ヶ月とし、學期は毎年一月に始め七月に終り四月に始め十月に終り七月に始め一月に終り、十月に始め四月に終る

高等科修業期限は本科と同じ

中等教員養成科は修業期限を二ヶ年とし入學期日を毎年四月十月の二期とす（高等女學校五ヶ年の課程を二年に短縮したるものにて卒業の後は中等教員檢定試驗を受くるの特權を有す）外に尚ほ研究科あり

文部大臣認定
財團法人
私立 戸板裁縫學校
東京市芝區三田四國町二の十六號
電話芝四四八九番

# 月經帶の良否鑑別法

月經帶の最良品は如何なる點にありや、曰く完全なる吸收具を備ふるにあり、吸收具を備へざる月經帶は、『越中褌』や『猿股』と撰ぶ所なし。何ぞ高金を出して買ふの要あらんや。是れ歐米婦人が『サニタリー、タチル』と云ふ吸收具を常に手放さゞる所以也。夫れ消毒綿と雖も挿入防經の大害あるは醫家の均しく宣言する所。而して月經帶の種類多き中にて最完全なる吸收具を備ふるは、獨り藤川學士發明の『安全帶』あるのみ。以て本品が如何に衞生を重んずる貴婦人令孃方に歡迎せらるゝかを知るべし。

本舖（東京下谷區池ノ端七軒町壹番地大學病院裏通　振替東京一六九二〇番）安全堂

支舖（大阪市西區江戸堀下通三ノ三九　振替東京壹壹四六壹番）洋々堂分店

定價（安全帶一筋、甲壹圓貳拾錢、乙八拾錢、並五拾錢（一筋にて永年使用）安全衣一打金四拾錢●送料一組（帶衣共）金八錢、一組毎に貳錢增し、代金引替小包料廿貳錢、臺、外國、樺、清、鮮、金卅錢）

# 本社取次書籍雜誌

西川光次郎著

ウ井リヤムブース言行錄　定價廿五錢　郵税四錢

トロー言行錄　同

カンペッター言行錄　定價廿五錢　郵税四錢

惡人研究（品切）　定價五十錢　郵税六錢

續惡人研究（品切）　同

神道綱要　定價十錢　郵税二錢

救世軍　同

心懷語　定價五十錢　郵税六錢

實踐道德簡易入門　定價四十五錢　郵税六錢

偉人の戀物語　定價七十錢　郵税八錢

新渡戸博士の『修養』評論　定價二十五錢　郵税四錢

高野重三著

婦人問題早わかり　定價七十錢　郵税八錢

---

西川文子著

婦人解放論　定價一圓　郵税八錢

西川文子著

新しき女の行くべき道　定價五十錢　郵税六錢

新眞婦人合本（自一號至十二號）　定價郵税共一圓

合本第二卷（自十三號至二十四號）　同

西川光次郎主筆

## 自働道話

▲四六倍形八頁
▲一部郵税共二錢五厘
▲一年同卅錢
▲毎月十日發行

平易簡明に、實踐道德、新道德を說く雜誌にして、四月號の要目左の如し。

戸外の道德▲施本▲癖物語▲貸家の消毒に就て▲一個の鉄▲若い夫婦に與へた友人の教訓▲二宮尊德と井上正鐵▲積善會▲斯くありたき家主の心掛▲東西衛生思想の相異▲貸家消毒普及會趣意書

東京本郷駒込林町二〇六
振替東京二四五五六　新眞婦人社


Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 新刊

▲夏目漱石氏著並に装幀▼第三版出來

## 小品集 硝子戸の中

定價金六拾錢
郵税金六錢

硝子戸の中に、感想あり。追懷あり。哲學あり。人生あり。赤裸々の著者の面目あり。人格あり。敢てこの小册子を大方に薦む。

▲夏目漱石氏著並に装幀▲第五版出來

## 小説 こゝろ

定價金壹圓五拾錢
郵税金拾貳錢

目次
先生と私
兩親と私
先生と遺書

自己の心を捕へんと欲する人々に、人間の心を捕へ得たる此作物を奬む。

發兌 東京神田南神保町 岩波書店 振替東京二六二四〇番 電話本局五四二〇番

新眞婦人（第二十五號
大正二年四月二十六日第三種郵便物認可
大正四年四月二十八日印刷納本
大正四年五月一日發行（毎月一回一日發行）

活動的婦人！
ライオン煉歯磨
ライオン化粧石鹸
活動的婦人！

定價金拾錢